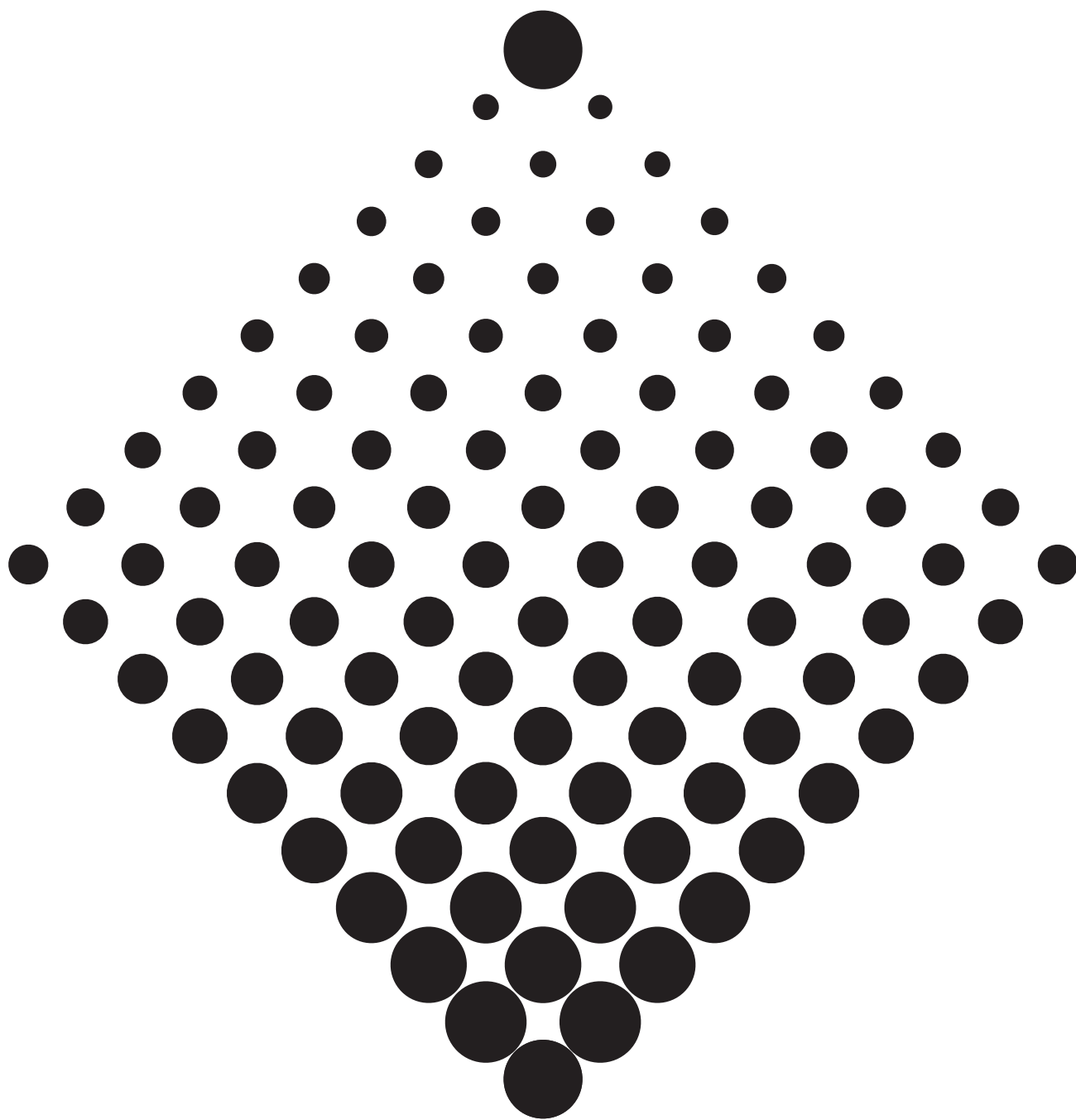


蔵前工業会百年史年表

2006



1906

刊行のことば

蔵前工業会は、本年3月18日で創立100年を迎えます。設立された明治39(1906)年が20世紀初頭にあたりますので、工業会は20世紀とともに歩んできたこととなります。この世紀の世界は、二度の世界大戦と金融恐慌による大不況などを経験いたしました。科学技術の分野では歴史上かつてない程の大飛躍を遂げました。

母校東京工業大学は、明治14(1881)年、東京職工学校として創設され、東京工業学校、東京高等工業学校を経て昭和4(1929)年に大学に昇格し、以後現在まで理工科単科大学として多くの研究者や技術者を輩出し、わが国の科学技術の発展と振興に大きく寄与してきました。

工業会は、発足当時、同窓会的色彩の強い団体でしたが、大正7(1918)年に農商務省から「社団法人」の認可を受け、社会貢献を求められる公的機関のひとつとして活動することになり、母校支援とともに公的な調査研究などを手がけることもありました。

このたび創立100年を迎えるにあたって、工業会の歩んできた道程をまとめることにし、あわせて母校の主要な出来ごとを併記した年表を刊行いたしました。工業会の母校支援や担って来た社会的役割のほかに、我々の諸先輩が築き上げた科学技術上の業績なども顧みていただきたく思います。

平成18年2月



社団法人 蔵前工業会
理事長 古川 昌彦

1881 → 1895

●明治14年

●明治28年



東京職工学校末期の校舎全景



明治17年に東京職工学校で鑄造した鐘。その後、同校の時鐘として使われた



東京職工学校第1回卒業生(明治19年7月)

■年月日	■蔵前工業会の歩み	■理事長
明治14(1881)年5月26日		
明治14(1881)年	東京職工学校創立後、生徒・卒業生間に、成美会、循誼会、窯業会、工業会、同窓会等、種々の団体があった。	
明治15(1882)年11月27日		
明治16(1883)年		
明治17(1884)年11月		
明治19(1886)年		
明治23(1890)年		
明治23(1890)年3月5日		
明治23(1890)年3月24日		
明治24(1891)年5月ごろ	「化学工藝会」が化学工藝部在生を中心に親睦団体として結成された。	
明治26(1893)年		
明治27(1894)年6月	会誌『化学工藝会誌』が発刊された。	
明治27(1894)年6月14日		
明治28(1895)年		



東京職工学校初期の卒業生(明治22年)。前列右から5人目がワグネル博士、その左が正木校長



ワグネル博士



ワグネル博士筆「染織学校設立の意見書」

■東京工業大学の歩み

東京職工学校設立。(文部省布達第2号) 予科、本科(化学工芸科、機械工芸科)を置く。9月27日、文部一等属正木退蔵氏が初代校長に任命される。

校舎建築竣工。浅草区蔵前片町29番地(19,140㎡[5,800坪]余)

ゴットフリード・ワグネル博士本校教官に就任。

陶器玻璃工科を設置。ワグネル博士が釉下彩陶器「旭焼」を創製。

非職文部省参事官兼会計局次長 手島精一氏が校長に任命される。

東京職工学校は東京工業学校と改称される(勅令第43号文部省直轄学校官制の改正による)。化学工芸部(染織工科、陶器玻璃工科、應用化学科の3科)、機械工芸部(機械科、電気工業科の2科)の2部を設置。

この年、シカゴ万国博覧会に出陳した生徒の実修製作品に対し、同博覧会から賞牌を贈られる。

工業教員養成所を創設。金工科、木工科、染織工科、窯業科(陶器玻璃工科を改称)、應用化学科、を置く(文部省令第12号)。

■校長

正木 退蔵



正木退蔵 校長

手島 精一



手島精一 校長

■科学分野の動き/社会の動き

エジソン電灯事業開始



トーマス・エジソン

ダイムラー:最初の自動車

電話の商用サービス開始

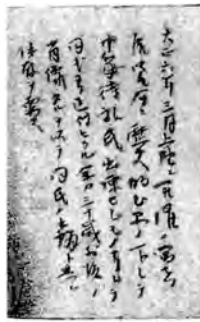


東京電話局の番町分局

1896 → 1899

●明治29年

●明治32年



『機械工芸会誌』第1号

『帝国之工業』第2号

手島校長、最初の洋行時の肖像(明治3年)

手島校長、30歳ごろの肖像

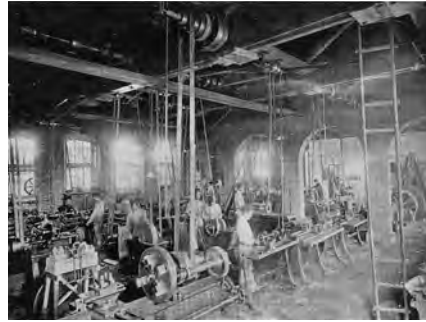
年月日	蔵前工業会の歩み	理事長
明治29(1896)年	「工業教育研究会」が工業教員養成所在校生ならびに卒業生を中心に結成された。会誌『工業教育研究会報告』が発刊された。	
明治29(1896)年		
明治29(1896)年	「機械工芸会」が機械科在學生を通常会員、職員・卒業生を特別会員として結成された。	
明治29(1896)年3月	会誌『機械工芸会誌』が発刊された。	
明治30(1897)年5月8日	機械工芸会は、卒業生を正会員、在校生を准会員と変更し、電気機械分科も会員に含めることになった。	
明治31(1898)年2月8日		
明治31(1898)年6月		
明治32(1899)年1月10日	東京工業学校出身者新年宴会が江東の中村楼で開かれた時、機械工芸会員谷崎安太郎氏ほか有志が「同窓会」設立を提案し決まった。会長には阪田貞一校長を推した(手島前校長は病気療養中)。当時、当校出身者の団体としては機械工芸会、化学工芸会の他にも甲午同窓会、蔵前染織同級会、工業教育研究会、織物見本蒐集会、上毛同窓会、機械図銅版同志会、窯業科同窓会、愛工会、岐阜県工友会、三重県同窓会などの会があり、これらを統合した。	
明治32(1899)年2月		
明治32(1899)年5月14日	「同窓会」の発会式が日本橋倶楽部で催された。その席上、「東京工業学校同窓会規則」が制定され、工業教員養成所の卒業生も会員の資格を有した。発会に先立ち、5月12日会誌『東京工業学校同窓会報告(第1回)』が発刊された。明治35、36年ごろ、会誌は『帝国の工業』と改訂された。ただ、いつまで継続されたかは定かではない。	



手島校長、「教育報知」誌にて
実業教育家として評価される
(明治30・第77号)



手島校長の自筆原稿



東京工業学校・機械科工場の授業(明治28年ごろ)



染織工科機織工場での授業(明治32年ごろ)

■東京工業大学の歩み

化学および機械工芸部の名称を廃止し、各科別に整理した。その際、窯業科、
応用化学科、機械科はそれぞれ1科とし、染織工科を色染、機織に分け、電気
工業科を電気工科と改称し、電気機械、電気化学に分けた。

手島校長の病気により、校長には阪田貞一氏が就任。

電気工科を電気科と改称する。

手島前校長は病気全快により校長に復帰、阪田校長は教授任命。

■校長



阪田 貞一 校長

手島 精一

■科学分野の動き／社会の動き

ジョセフ・J・トムソン



J・J・トムソン：電子の存在を確認

キューリー夫妻：ラジウムの発見

ラザフォード： α 線、 β 線発見



アーネスト・ラザフォード

1899 → 1909

●明治32年

●明治42年



東京高等工業学校正門



本館校舎(明治35年)



初の校内開放(明治36年5月26日、第20回創立記念日)

■年月日	■蔵前工業会の歩み	■理事長
明治32(1899)年6月30日	同窓会設立に伴い、「化学工藝会」は、同年4月1日総会に於て、解散の決議をし、6月30日付で解散した。「化学工藝会」は解散したものの「機械工藝会」は存続し(存続理由は倶楽部建設基金の応募金を有し、軽々に扱い兼ねたためと言われている)、「同窓会」の意気は上がらなかった。	
明治32(1899)年9月		
明治33(1900)年		
明治34(1901)年5月10日		
明治35(1902)年9月		
明治35(1902)年12月		
明治36(1903)年5月26日		
明治38(1905)年9月		
明治39(1906)年3月18日	機械工藝会は、臨時総会を開き、議題「機械工藝会を他の科の卒業生にも解放して発展的解消をなし、会名も蔵前工業会とする」ことを決め、その結果、機械工藝会を中核とした「蔵前工業会」が設立された。 会長には手島精一校長が就任。ただし、在校生は含まれなかった。	手島 精一
明治39(1906)年7月3日		
明治39(1906)年7月11日	『蔵前工業会誌』創刊号発刊。号数は、これを初号としないで、『機械工藝会誌』の後を継いで、第50号とされた。年6回の発行。	
明治40(1907)年9月		
明治41(1908)年5月26日	会員の発明・発見・制作・監督および指導になった工業品の展覧会開催、会期5日間。	



『蔵前工業会誌』創刊号(通算第50号)

東京高等工業学校歌
(明治二十九年制定)
中村 秋香 作歌
東京音楽学校 作曲

一、堤の櫻名に流れたる
隅田の川の西の岸
此處こそ櫻にいやまさる
花咲き匂ひ馨はしき
果實を結ぶ工業の
木高き林の立つところ

二、強兵富國世に類なき
果實はやがて工業の
花に結ぶといはずやは
この林こそ其の花の
為にと夙く開かれし
因由古き園生なれ

三、見よその若木は移しく廣く
總ての土地よ繁りあひ
苗木は年々數知らず
園生の中に生立ちて
おのゝ花を競ひつゝ
果實の貢獻に勉むるを

四、富強の果實を得る花園と
世に仰がれて隅田川
水の流れ乃常久ふ
生ひ繁り行くこの林
誇りて祝へ諸ともに
祝ひて誇れ諸馨に

■東京工業大学の歩み

工業図案科を設置。

東京工業学校は東京高等工業学校と改称。(勅令第99号)

外国人入学許可制度を設け、これにより中国、韓国、その他東南アジア諸国の学生の志望が活発となる。

建築科を設置(授業開始は明治40年4月)。

創立記念日に校内を初めて一般公開する。

規則を改正して、中学校優等卒業者の無試験入学を許可する。

創立25年に鑑み、皇太子殿下が台臨される。

志望中学生の出身校の資格を「本校ニ於テ適當ト認メタル中学校」と規則改正。

■校長

手島 精一

■科学分野の動き/社会の動き

M・プランク:光子量子仮説

ノーベル賞創設

シベリア鉄道開通

ライト兄弟:初の動力飛行機に成功

アインシュタイン:特殊相対性理論



アルバート・アインシュタイン

世界初のラジオ実験放送成功
空中窒素固定法(ドイツ)

ベークライトの発明

T型フォード登場
ステーブルファイバー(スフ)の発明

1910 → 1916

●明治43年

●大正5年



大正2年当時の校舎(手前は隅田川)



校舎全景(大正2年)、手前は隅田川の掘割



制定された蔵前工業会の
会員徽章(大正4年1月)

年月日	蔵前工業会の歩み	理事長
明治43(1910)年11月	久米彪郎・泉量一・岡崎善雄3氏の主唱の下に、会員有志150名の発起人によって、京橋区材木町3丁目に「蔵前工業会員有志倶楽部」(後に蔵前工業倶楽部と改称)を設立。有志会員の加入に努め、娯楽・集会・地方会員の宿泊などに使用できるようにした。	
明治44(1911)年8月		
大正2(1913)年1月12日	臨時総会において基本金の募集を決定し、本会の事務所の建築、会員の弔慰金などに当てることにした(母校購入予定の母校周辺の土地の一部を借用する計画は実現不可となり、丸の内付近に借室を求める計画に変更)。	
大正2(1913)年4月	兵庫県と福岡県に支部を設立。	
大正3(1914)年3月1日	本会事務所を母校内より麹町区八重州1丁目、三菱第14号館に移転し、小規模ながら撞球室・応接室・会議室を設け、会員の利用に供し、事務所兼倶楽部の形態で新発足した。同時に蔵前工業倶楽部はその目的を達成したとして、所有する一切の設備を本会に寄贈し解散した。	
大正3(1914)年9月		
大正4(1915)年1月	蔵前工業会会員徽章を制定。大正3年2月、会員より会員徽章の図案を募集したが、決定されず入選案を参考にして制定した。	
大正4(1915)年5月26日	母校主催・本会協賛の下に会員の制作による工業品を全国的に収集して、創立35年記念第1回工業品展覧会を開催。会期14日間。	
大正4(1915)年9月		
大正5(1916)年9月		
大正5(1916)年10月23日	手島前校長の工業および工業教育界における功労を表彰する招待会の席で、「手島工業教育資金団」の募金計画を具体化した。 ・寄付額(大正6年6月末):13万4,602円	



創立35年記念「第1回工業品展覧会」



手島校長の退官慰労表彰式(大正5年・上野精養軒)

「(中略)……閣下並諸君! 私は同志を代表して手島先生の工業界に於ける貢献を永久に記念する為に、有志者の醸金により手島工業教育資金団を設置したい。その用途の大意は(一)は工業に関する奨学資金、(二)は工業に関する研究の資金に充てると言う趣意である。ここに本団の設定の計画に諸君のご賛同を乞う……。」

「手島工業教育資金団」発起人の中野武営氏(東京商業会議所会頭)の演説文の一部

■東京工業大学の歩み

規則改正により、色染科、紡織科、電気化学科、電気科がそれぞれ1科として独立。他の学科は窯業科、応用化学科、機械科、工業図案科、建築科で計9科となる。

工業図案科が東京美術学校図案科に吸収合併される。

蔵前工業会の協賛を得て創立35年記念「第1回工業品展覧会」を開催する。

規則を改正し、従来9月より翌年8月までであった学年を、4月より翌年3月に至る間に改正する。

■校長

阪田 貞一

■科学分野の動き/社会の動き

日英博覧会をロンドンで開催
鈴木梅太郎ビタミンB1単離

アムンゼン隊南極点に到達

ボーアの原子モデル
東海道本線全線複線化

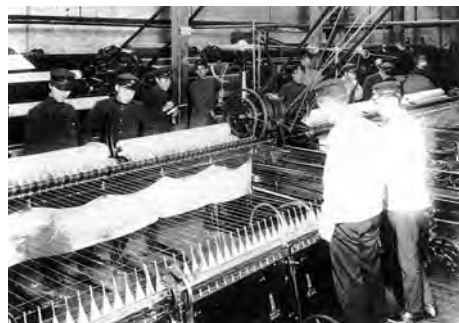
第一次世界大戦勃発

アインシュタイン：一般相対性理論定式化

1917 → 1919

●大正6年

●大正8年



東京高等工業学校の一部、航空写真(大正2年)。右端に校舎全体の俯瞰図(大正2年)
3本煙突、手前に隅田川が見える

紡織工場(大正2年)

年月日	蔵前工業会の歩み	理事長
大正6(1917)年10月9日	工業教育および工業の発展を図ることを目的とする「財団法人 手島工業教育資金団」の設立。理事長に手島精一 前校長就任。 ・基本財産:13万5,640円	
大正6(1917)年11月7日	第1回商工懇親会を開催。本会は、前年11月6日、如水会主催の手島前校長招待会の席上、商工提携の話題から発展して成立したものである。 以来、毎年春秋2回開催し、継続実施されて昭和18年11月11日の第53回に及び、時局多端となったために中断するに至った。	
大正7(1918)年1月13日	臨時総会において、本会を任意団体から社団法人蔵前工業倶楽部として設立することを議決(同設立資金2万円は蔵前工業会が支出)。しかし、本件については、母校昇格運動、手島工業教育資金団設立募金などのため一時延期となった。	
大正7(1918)年1月21日	手島精一会長逝去。	
大正7(1918)年5月26日	総会において「社団法人蔵前工業会」定款を附議決定し、7月19日農商務省の設立認可を受け、社団法人として発足。会長制を廃止して理事長制にした。初代理事長に小林懋氏が就任した。	
大正7(1918)年6月15日	高等工業学校の修業年限延長の学制改革案文部省に陳情する。	
大正7(1918)年6月18日		①小林 懋 (明治20・機械)手島精一氏逝去(大正7年1月21日)に伴い就任
大正7(1918)年12月6日		
大正8(1919)年1月17日	全国支部代表会及び臨時総会において、母校を単科大学に昇格させる件の動議が出され、その決議案が可決されて昇格運動が発足した。	
大正8(1919)年2月		



金相学研究室 (大正2年)



オッシログラフ実験室 (大正2年)



窯業科の窯場 (大正2年)

■東京工業大学の歩み

■校長

■科学分野の動き／社会の動き

[Blank area for text]

[Blank area for text]

[Blank area for text]

[Blank area for text]

[Blank area for text]

第一次世界大戦終結

[Blank area for text]

[Blank area for text]

[Blank area for text]

[Blank area for text]

文部省は、勅令第388号をもって「大学令」を制定公布し、単科大学を法的に認める。

[Blank area for text]

[Blank area for text]

本校と工業会は、「東京工業大学ヲ単科大学ト為スベキ理由」書を文部省に提出する。

1919 → 1922

●大正8年

●大正11年



建築科製図室(大正2年)



創立38年記念式典(大正8年5月)



創立38年記念日の正門付近

■年月日	■蔵前工業会の歩み	■理事長
大正8(1919)年11月		
大正8(1919)年11月27日		
大正8(1919)年12月1日		
大正9(1920)年		
大正9(1920)年11月21日	文部大臣に母校昇格を要望する上申書を提出。	
大正9(1920)年12月		
大正10(1921)年1月	母校昇格問題が紛糾を重ねている真相を社会に明らかにし、これを促進するため経過状況報告書を作成し、国務大臣、貴・衆両院議員その他関係者へ広く頒布し、また同年2月には本会の主張・態度を明らかにする宣明書を頒布した。さらに同年7月、政府の新設した「教育評議会」に対し実行委員が歴訪し陳情を行った。	
大正10(1921)年2月3日		
大正10(1921)年7月9日		
大正10(1921)年10月1日		
大正11(1922)年2月17日	「教育評議会」において母校を含む5校昇格案が決定したので、実行委員会は分担して関係方面を歴訪し、その実現時期について陳情した。	



創立38年記念日の校内



文部省正門前に集結した学生(大正8年11月)



総退校決起大会(大正10年2月)

■東京工業大学の歩み

阪田貞一校長、本校の大学昇格を文部大臣に強く要望し、大正12年度に完成させる見込みで立案しつつある旨の回答を得る。文部省は、大正9年より12年まで4年間に設備を完成させる予定で大正9年度概算予算に計上し、大蔵省の査定を通過したが、予算草案に盛り込まれる閣議で否決される。

閣議否決に憤激した本校学生は生徒大会を開催して昇格実現を決議し、文部省に押しかける。

昇格に対する文部省の保証的言辞に学内の運動は一応収まる。

昇格の件、「臨時教育委員会」(大正8年5月23日設置)に諮問される。この委員会の大勢は工業単科大学に否定的であった。大正10年度予算に本校昇格に関する予算が計上されていないことが判明し、沈静しつつあった学内の昇格運動は一気に爆発する。

昇格実現獲得の示威活動として、生徒大会で全校生徒の退学届の提出を決議する。この退学届騒動は、教官、蔵前工業会および昇格実行委員会の慰撫で2月10日全員復校となり、收拾される。

文部省「臨時教育委員会」を廃止し、新たに「教育評議会」を設置する。

昇格問題、「教育評議会」に諮問される。

■校長

吉武 栄之進



吉武栄之進 校長

■科学分野の動き/社会の動き

1922 → 1924

●大正11年

●大正13年



アインシュタイン博士が来訪(大正11年)



昇格祝賀会(大正12年5月)



昇格祝賀会でにぎわう校内(大正12年5月)

年月日	蔵前工業会の歩み	理事長
大正11(1922)年2月28日		
大正11(1922)年3月15日		
大正11(1922)年10月29日	関西で工業技術家大懇親会が開かれ、さらに同年11月25日の本会、工政会など、14団体発起の工業技術者大懇親会に発展した。 発端は、蔵前工業会大阪支部と大阪工業倶楽部の連合懇親会であった。	
大正12(1923)年3月23日		
大正12(1923)年4月27日	総会終了後、母校の大学昇格決定を記念する祝賀会が催された。	
大正12(1923)年5月18日		
大正12(1923)年9月1日	関東大震災が発生。母校校舎及び諸設備はことごとく焼失したが、本会事務所は災害を免れた。 直ちに被災した会員の調査慰問に全力を傾ける一方、本部及び全国支部発起のもと、被災会員に対する弔慰金、見舞金の募集を行った。1,544名より1万5,738円余の拠出を受け、これを被災会員364名に贈った。	
大正12(1923)年10月	母校焼失により、全国会員に対して教授用並びに生徒参考用図書標本類などの提供をもとめ、それらの品を随時取りまとめて母校に寄贈した。	
大正12(1923)年10月15日		
大正13(1924)年1月		
大正13(1924)年4月1日		
大正13(1924)年4月21日		



関東大震災により無残な姿をさらす校舎(大正12年)



震災で焼けただれた機械類(大正12年)



大岡山移転直後の全景(大正13年)

■東京工業大学の歩み

「教育評議会」は「東京高等工業学校、大阪高等工業学校、神戸高等商業学校ノ組織ヲ変更シテ東京及大阪ニ工業大学、神戸ニ商業大学ヲ設置スルコト」を答申する。

本校昇格案を含む、大正11年度追加予算案は衆議院で可決されたが、3月26日貴族院において定足数に満たず審議未了に終わった。

本校の昇格を含む予算案は、2月13日に衆議院を通過し、この日、貴族院を通過して、本校積年の悲願であった大学昇格が正式に決定する。

校友会主催による昇格祝賀会を挙げる。

関東大震災に罹災し、本校の校舎ならびに校具等すべて烏有に帰す。

市外目黒駒場の東京帝大農学部敷地ならびに建物の一部を借り受け、移転して復興に従事し、同時に11月1日より授業を再開する。

本校敷地は市外碑衾町大岡山と決定し、直ちに校舎の仮建設に着手する。

仮校舎が竣工し、移転を開始する。

始業式、移転開校祝賀会を挙げる。翌22日より授業を開始する。

■校長

■科学分野の動き／社会の動き

結核ワクチンBCG(フランス)
関東大震災



関東大震災直後の銀座

ラッパ付きラジオを聞く人々



日本ラジオ放送始まる
メートル法使用開始

1924 → 1929

●大正13年

●昭和4年



大岡山に移転直後の東京高等工業学校正門(大正13年)



大岡山の仮校舎群



開校記念日の校内から正門前を望む

■年月日	■歳前工業会の歩み	■理事長
大正13(1924)年6月	我が国工業の振興に資するため「工業調査会」を設置。各専門ごとに委員会を設けた。	
大正13(1924)年10月17日	工政会主催の「第1回工業技術家大会」を開催、会期3日間。 この会は、昭和12年の第8回にまで続いた。	
大正14(1925)年		
大正15(1926)年6月		
大正15(1926)年11月	「会史編纂委員会」を設置。昭和2年2月に略史が完成。	
昭和2(1927)年4月22日		②相馬 半治 (明治29・応用化学)
昭和2(1927)年7月		
昭和3(1928)年		
昭和4(1929)年1月17日	母校の予科設置に関する決議を臨時総会で決めたが、その設置は極めて困難であることがはっきりし、懸案であった「歳前会館」建設に全力を傾注することになった。	
昭和4(1929)年3月15日		
昭和4(1929)年4月1日		



大正15年12月、最初の実験のために雲母板に墨で書いた「イ」の文字の原稿



テレビに映し出された「イ」の文字

高柳健次郎博士(右)のテレビ実験。左は博士を訪ねた中村幸之助学長(昭和6年)

東京高等工業学校校歌

(大正十五年制定)

土井 晩翠 作詞

永井 建子 作曲

一、先には隅田の 流れの岸に
 今はた碑衾 大岡山に
 東京高等工業学校
 ほまれ歴史と 望の未来
 つとめよ幾千 あゝわが健兒

二、亜細亜の光と かゞやく日本
 東亜の一隅 波みな捲けば
 國是は畢竟の 工業重し
 祖先の教よ 子孫の幸よ
 つとめよ幾千 あゝわが健兒

三、形と色とに 巧をしめす
 文化の精粹 その根は心
 誠の一徳 基をなさん
 祖國の榮と 世界の利との
 つとめよ幾千 あゝわが健兒

■東京工業大学の歩み

関東大震災後の混乱で、本校の大学昇格実現は延期のやむなきに至っていたが、文部省は文部次官を委員長とする「官立工業大学設立委員会」を設置し、ようやく昇格へ向け具体的施策が実施される。

1月に東京工業大学の第1回学生募集を行い、この日入学試験を実施。153名入学許可。

勅令第36号をもって「官立工業大学官制」が公布され、東京工業大学の設置が正式に承認される。これに伴い旧東京高等工業学校および同校附設工業教員養成所は大学附属工学専門部および大学附属工業教員養成所に改組され、在学生の卒業まで存置される。初代学長に中村幸之助校長が就任。

■校長/学長

中村 幸之助



中村幸之助 校長

中村 幸之助

■科学分野の動き/社会の動き

ハイゼンベルグらが量子力学発表

シュレディンガー波動方程式発表
 高柳健次郎「イ」の字の伝送実験に成功

アレクサンダー・フレミング



フレミング:ペニシリン発見

世界金融恐慌(ウォール街株暴落)

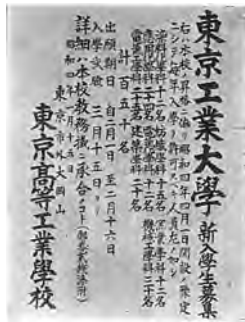
1929 → 1931

●昭和4年

●昭和6年



大岡山時代の東京高等工業学校正門



学生募集のポスター



昭和4年の目蒲線大岡山駅

■年月日

■蔵前工業会の歩み

■理事長

昭和4(1929)年4月15日

昭和4(1929)年4月27日

昭和4(1929)年5月26日

昭和5(1930)年7月

昭和5(1930)年10月

昭和6(1931)年1月31日

昭和6(1931)年2月7日

昭和6(1931)年2月11日

昭和6(1931)年3月

昭和6(1931)年4月24日

母校開校記念式典終了後、蔵前工業会と学友会の共催で大学昇格祝賀会が催された。総会で、建築科出身者からなるA会(後の冬夏会)提出の会館建設案が採択され、早期の設立を目指して実行委員を選出した。委員長に笹村吉郎、副委員長に大石鑛吉、沢 全雄、松下新作が就任。

以下のように取り進めた。

(1) 株式会社蔵前工業会館を設立。

資本金:30万円、募集株式:15,000株

発起人 総代 大石鑛吉

なお、会員全株主の方針のもとに、7月6日から株式の募集を開始し、12月25日満株に達した。

(2) 建設場所は、新橋駅前の芝区日蔭町1丁目1番地を選定。

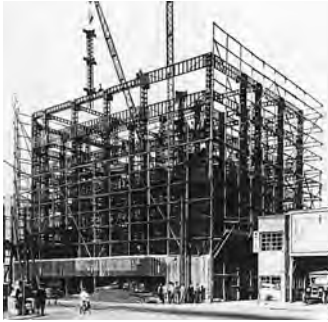
9月1日に建設敷地の借地権取得手続を完了。

会館建設工事の入札を行い、戸田組が15万3,000円で落札。

会館の地鎮祭が行われ、翌12日着工。

③内村 達次郎
(明治23・機械)

④浜田 彪
(明治24・機械)



建設工事中の旧蔵前工業会館（昭和6年）



松杭が林立する工事中の地下部分



旧蔵前工業会館竣工時の威容（昭和6年）



開館当時の談話室（4階）

■東京工業大学の歩み

大学の第1回入学宣誓式を挙げる。大学発足時の学科は染料化学科、紡織学科、窯業学科、応用化学科、電気化学科、機械工学科、電気工学科及び建築学科の8科と、数学教室、物理学教室、物理化学教室、および分析化学教室の4教室が設置される。

無機化学教室を設置。

有機化学教室を設置。

本学震災復興事業執行のため、復興部を設置。

大学本館建築工事を開始する。

■学長

■科学分野の動き／社会の動き

フェライトの発明

合成ゴムの発明(ドイツ)

1931 → 1934

●昭和6年

●昭和9年



大学本館の建設予定地



建設中の大学本館



竣工した大学本館

年月日	蔵前工業会の歩み	理事長
昭和6(1931)年9月		
昭和6(1931)年12月26日	会館竣工、27日開館式を挙行。 ・会館概要 敷地:441.22㎡(133.47坪) 建坪:379.73㎡(114.87坪) 6階建てで、総面積2913.05㎡(881.22坪) 鉄筋鉄骨コンクリート造り(近世式)	
昭和7(1932)年1月	本会事務所を新会館内に移した。	
昭和7(1932)年3月31日		
昭和7(1932)年5月	本会内に「満蒙調査機関」を設置。調査結果は昭和8年5月、「満州国素描」(1巻)にまとめて刊行した。	
昭和7(1932)年9月		
昭和8(1933)年3月27日		
昭和8(1933)年4月24日		⑤笹村 吉郎 (明治25・機械)
昭和8(1933)年秋	「実業教育実施50年記念大会」に当って「実業教育沿革資料」2,000部を出版。全国実業学校に寄贈した。	
昭和8(1933)年10月	文部省内に設置された「実業教育振興委員会」から本会へ「我が国産業の趨勢に鑑み、実業教育振興の方策はいかにあるべきか」という諮問があり、本会は臨時調査委員会(委員長 山口貴雄)を設置し、創意に富んだ答申をした。	
昭和9(1934)年2月28日		
昭和9(1934)年4月10日		
昭和9(1934)年8月		



本館2期工事が竣工。手前に分析棟が完 建築材料研究所
成した

東京工業大学校歌

(昭和九年制定)

土井 晩翠 作詞
瀬戸口藤吉 作曲

一、昭和の四年の うれしき春に
東京工業大学成りぬ
ほまれの前進 望の未来
もろとも輝く あゝ母校
つとめよ幾千 あゝわが健兒

二、亜細亜の魁 尊とき使命
進みて大地 率ふる時に
國是は工業 わが道遠し
億萬數へん 子孫の恵
つとめよ幾千 あゝわが健兒

三、誠の一徳 基をなして
祖國と世界の 榮を來し
人文史上に 功を建てて
四海に放たむ 不朽の光
つとめよ幾千 あゝわが健兒

■東京工業大学の歩み

化学工学教室を設置。

■学長

■科学分野の動き／社会の動き

第1回卒業式を挙行し、128名に卒業証書を授与。

附属予備部設置。

大阪工業大学の大阪帝大編入に伴い「官立工業大学官制」で規定されるものは本学のみとなる。

電子顕微鏡の発明

建築材料研究所を附置(所長 加藤与五郎教授)。

工業および工業経済に関する調査研究のため、工業調査部を設置。

大学本館が竣工する。建坪 24,090㎡(7,300坪)。

1935 → 1939

●昭和10年

●昭和14年



東京工業大学の正門。手島先生の像はここにあった(昭和8年)



本館落成・第54回記念祭のポスター(昭和11年)



完成した本館全景(昭和13年)



軍事教練(昭和13年)

年月日	蔵前工業会の歩み	理事長
昭和10(1935)年4月24日		⑥大石 鏞吉 (明治26・機械)
昭和10(1935)年6月		
昭和11(1936)年5月25日	第1回卒業生による「卒後50年記念大会」を開催。 ・卒業生24名中、生存者11名。	
昭和12(1937)年	河井寛次郎氏、パリ万国博覧会出品作「鉄辰砂草花図壺」がグランプリを受賞。	
昭和12(1937)年4月24日		⑦秋保 安治 (明治29・建築)
昭和12(1937)年12月	母校創立60年(昭和16年)記念資金募集に関する趣意書および寄付金募集要項を発表、「母校創立記念会」を設立。 会長に中村幸之助学長就任、事務所を蔵前工業会内に置いた。 募金目標:60万円。	
昭和13(1938)年3月	帝国発明協会の優秀発明表彰において、本会員の入賞は、恩賜記念賞3件、大賞4件、進歩賞18件、有功賞8件であった。	
昭和13(1938)年7月2日		
昭和13(1938)年		
昭和14(1939)年2月21日		
昭和14(1939)年4月		
昭和14(1939)年4月8日		
昭和14(1939)年4月22日		⑧山田 三次郎 (明治30・窯業)



河井寛次郎氏

- ・明治23(1890)年生 島根県安来市出身
- ・大正3(1914)年 東京高等工業学校窯業科卒業
- ・陶芸家

板谷波山氏に師事した。作風は謙虚で質素な日常生活になじむもので、作品の皿や壺は、質素な中に躍動のかつ重厚で、個性的なものであり、高い評価を受けた。大正14年頃から、柳宗悦氏、濱田庄司氏と「民芸」活動を始め、中核となった。人間国宝、文化勲章などを一切辞退し、孤高の芸術家として一生を貫いた。



鉄辰砂草花図壺
(京都国立近代美術館所蔵)



資源化学研究所

■東京工業大学の歩み

工業経済教室を設置。

文部省令により「集团的勤労作業実施委員会」を設置。

精密機械研究所が11月に、資源化学研究所が12月に竣工する。

資源化学研究所を附置(所長 加藤与五郎教授)。

昭和14年度より、学生定員が150名より209名と大幅に増員される。

航空機工学科を設置。

■学長

■科学分野の動き/社会の動き

ワトソンワット:レーダー実験
湯川秀樹:中間子論発表
カローザス:ナイロン発見

英国でテレビ放映開始

ホイットル:ジェットエンジン成功

ウランの核分裂発見
シュラック:ε-カプロラクタムからナイロン-6を合成

第二次世界大戦勃発
ジェット機初飛行(ドイツ)
有機リン殺虫剤の発明(ドイツ)
レーダーの発明(日本)

1939 → 1941

●昭和14年

●昭和16年



創立60年記念祭会場の入口(昭和15年)

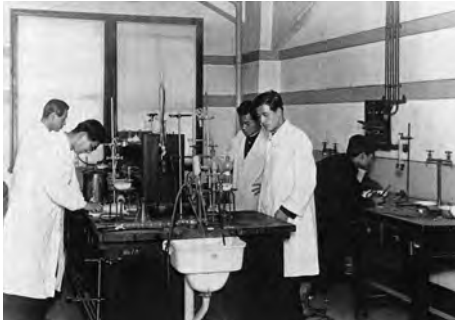


記念祭の学内案内図と学内観覧券(昭和15年)



記念祭での紡織学科の展示(昭和15年)

年月日	蔵前工業会の歩み	理事長
昭和14(1939)年9月19日		⑨ 齋藤 俊吉 (明治27・応用化学) 山田三次郎氏逝去(昭和14年6月23日)に伴い補選
昭和14(1939)年12月27日		
昭和15(1940)年4月1日		
昭和15(1940)年10月	「東京工業大学昇格史」を会誌10月特集号として発刊。	
昭和15(1940)年11月8日	母校に於いて挙行された創立60年記念式典で「母校創立記念会」の寄付金を母校に贈呈した。 ・寄付金(応募金):156万4,000円(申込件数 2,300余) この使途は、学術研究資金、職員・学生の海外学術実地研究調査経費、学術研究の半工業的研究に関する経費、大学正門建設などに充当した。	
昭和15(1940)年11月8日	本会と東京支部共催で「東京工業大学創立60年記念祝賀大晩餐会」を開催(於、上野精養軒にて)。	
昭和16(1941)年1月15日		
昭和16(1941)年4月1日		
昭和16(1941)年4月22日		⑩ 松江 春次 (明治32・応用化学)
昭和16(1941)年9月	本会と会館との連絡に関する調査、蔵前旧校舎跡に記念碑建立に関する調査、および母校大学予科設置問題調査についての各委員会を設置。	
昭和16(1941)年12月8日		
昭和16(1941)年12月28日		



化学実験室(昭和15年)



体育祭(昭和15年)



精密機械研究所

■東京工業大学の歩み

■学長

■科学分野の動き/社会の動き

精密機械研究所を附置(所長 佐々木重雄教授)。

化学工学科を新設。化学工学教室は廃止。

創立60年記念式典を挙げる。

蔵前学友会を解散し、東京工業大学奉誠会を設置。

金属工学科、燃料工学科を新設。

在学年限の短縮に伴い、卒業証書授与式を挙げる。

太平洋戦争 宣戦布告



真珠湾攻撃

1942 → 1944

●昭和17年

●昭和19年



大学正門より富士山を望む



入学式と宣誓名簿記帳(昭和16年)



測量授業(昭和16年)

■年月日	■蔵前工業会の歩み	■理事長
昭和17(1942)年1月17日		
昭和17(1942)年3月		
昭和17(1942)年5月26日		
昭和17(1942)年10月1日		
昭和17(1942)年11月	蔵前の旧校舎跡記念碑の建立計画を策定。	
昭和18(1943)年1月30日		
昭和18(1943)年4月22日		①関口 八重吉 (明治29・機械)
昭和18(1943)年9月	戦局苛烈、物資が不足し、用紙の配給が激減したため、会誌は、紙質変更、紙数減少し、不定期刊行となった。	
昭和18(1943)年10月1日		
昭和18(1943)年11月21日		
昭和19(1944)年1月1日		
昭和19(1944)年1月6日		
昭和19(1944)年4月1日		



大学祭(昭和16年)



野球を楽しむ。右側の建物は講堂、その奥に本館が見える(昭和16年)



学徒出陣(昭和18年)

■東京工業大学の歩み

南方資源開発調査会を設置。

附属高等工業教員養成所を設置。

在学年限の短縮に伴い、入学宣誓式を挙げる。

窯業研究所を附置(所長事務取扱 平野耕輔講師)。

特別研究生制度、幹部技術者講習所、附属予備部特別予科を設置。

出陣学徒壮行会、神宮外苑で挙行される。

生産工学研究部を設置。工業調査部は廃止。

電子工学研究所を附置(所長 山本勇教授)。

附属工業専門部を設置。機械科、電気科、電気通信科、航空機科、金属工学科、化学工学科を置く。

■学長

八木 秀次



八木秀次 学長

■科学分野の動き/社会の動き

ウランの核分裂連鎖反応に成功
ロケット、DDTの発明

ワクスマン:ストレプトマイシン(アメリカ)
ドイツV2号ロケット



V-2号ロケット

1944 → 1946

●昭和19年

●昭和21年



浅草蔵前ノ地ニ東京職工学校ヲ創設セラレタルハ、明治十四年ノ事ニ屬ス。爾來歳ヲ閱スルコト六十二星霜、技術者ヲ輩出スルコト万ヲ超シ、此間時勢ノ進軍ニ伴ヒ、校名ヲ明治二十三年東京工業学校ニ同三十四年東京高等工業学校ニ改メラレタルガ、偶々大正十二年大震災遭ヒ、其復興ヲ企図スルニ當リ、寧ろ都心ヲ離レテ郊外ノ地ヲトスルニ若方ストナシ、翌十三年大岡山ノ地ニ移リ、昭和四年昇格シテ東京工業大学ト呼称セララルニ至ル。其校門ヲ出スル者、何レモ質実剛健ノ校風ヲ繼承シテ、今ヤ所謂蔵前出身ノ技術者ハ、全東亜ニ巨リテ建設ノ重要部門ヲ担ヒ、各其特色ヲ發揮シテ産業報國ノ実ヲ昂揚シツアルハ、世ノ等シク認ムル所ナリ。(中略)是ニ於テ本会ハ神社関係者ト相図リ、石ニ刻シテ其地蹟ヲ表シ以テ蔵前工業学園ノ蹟ヲ永ク後世ニ伝ヘントス。

昭和十七年一月吉日
社団法人 蔵前工業会



榊神社(東京都台東区蔵前)に建つ本学発祥記念碑

記念碑の碑文(蔵前工業学園之蹟)
帝国教育会長 永田秀次郎撰

大岡山駅から登学する学生

卒業試験

年月日	蔵前工業会の歩み	理事長
昭和19(1944)年4月30日	評議員会は、時局緊迫に伴い、非常措置として以後の表決を書面によって実施することにした。	
昭和19(1944)年8月5日	「旧校舎跡記念碑」が完成し、落成式を行った。 場所は、現・台東区蔵前1丁目4 榊神社境内	
昭和19(1944)年8月22日		
昭和19(1944)年8月23日		
昭和19(1944)年11月4日	理事会は、会館の一部を軍に貸すことを決定。	
昭和19(1944)年12月		
昭和20(1945)年2月11日		
昭和20(1945)年4月20日	会館の1階と2階を鉄道局に貸し、重要書類は母校へ疎開させた。	
昭和20(1945)年5月24日		
昭和20(1945)年6月30日		⑫久保 正吉 (明治36・機械)
昭和20(1945)年8月15日		
昭和20(1945)年8月28日		
昭和20(1945)年12月31日		
昭和21(1946)年2月1日		



全学祭正門前



排球大会(全学祭)



駅伝大会(全学祭)



籠球大会(全学祭)

■東京工業大学の歩み

■学長

■科学分野の動き/社会の動き

燃料科学研究所を附置(所長事務取扱 田中芳雄講師)。

学徒勤労令公布される。

学徒勤労員実施委員会を設置。

空襲により電気化学科実験室、航空機工学科風洞実験室、機体実験室、資源化学研究所および建築材料研究所の総建面積6,718.2㎡(2,085.824坪)のうち5,967.5㎡(1,808.342坪)を焼失する。

文部省9月新学期より正規の授業復帰を決定する。

航空機工学科及び燃料工学科ならびに専門部航空機科を廃止。

東京工業大学刷新要綱が策定される。

和田 小六



和田小六 学長

国際連合の設立



国連結成準備総会で演説するトルーマン米大統領

太平洋戦争 終戦
第二次世界大戦終結

1946 → 1949

●昭和21年

●昭和24年



演劇「ドモ又の死」の舞台(全学祭)



喫茶室



学生食堂

年月日	蔵前工業会の歩み	理事長
昭和21(1946)年3月22日		
昭和21(1946)年4月1日		
昭和21(1946)年5月1日		
昭和21(1946)年5月15日		⑬石川 昌次 (明治30・機械)
昭和21(1946)年9月	我が国工業の指導、援助、奨励を目的として「工業助成会」を設立。	
昭和22(1947)年3月31日		
昭和22(1947)年5月14日		⑭苔米地 義三 (明治36・応用化学)
昭和22(1947)年10月1日		
昭和23(1948)年	『蔵前工業会誌』を4月号(No.483)より「蔵前工業」として一般に販売した(昭和24年1月号[No.485]まで)。	
昭和23(1948)年3月31日		
昭和23(1948)年5月31日		
昭和23(1948)年6月	講演会を開催、以後毎月定例に開催することとなった。	
昭和24(1949)年	会誌7月号(No.486)よりタブロイド版「蔵前工業」となる。	



昭和23年3月の本館。戦時下の名残りの迷彩が施されている



学生バッジ

職員バッジ

■職員バッジ(学生バッジ)の制定

昭和23年1月末の運営委員会で、学内での職員の身分を明確にし、防犯にも役立てるという趣旨で職員バッジの審査委員会を設置し、広く図案を募集した。70点の応募があり、委員会で優秀作8点に絞って審査を行った結果、堀進二東京美術学校教授(当時、本学の「自在画」「彫塑」の授業を担当)の図案を採用した。その図案は、工の字につばめの大の字を図案化して配したもので、工の字はまた窓を形どったものであり、学窓の意味をも象徴している。他方「つばめ」は瑞鳥として古くから喜ばれているものである。この図案の職員バッジは、当時の全職員に配布され、また学生バッジとして同じ図案で色彩を変えて制定された。

■東京工業大学の歩み

電子工学研究所を電気科学研究所と改称する。

官立工業大学官制が廃止され、官立大学官制が公布される。学則を改正し、学科制を廃止して10のコース別学習課程に改める。

研究協力部を設置。学務運営に関する運営委員会を設置し、事務処理のため理学系、応用化学系、応用物理系、建築系および経営系を設置。

文部省の委託により科学教育研究室を設置。

附属工業専門部を廃止。

東京工業大学工業所有権委員会を設置。

■学長

■科学分野の動き/社会の動き

ENIAC:コンピュータ完成(アメリカ)



世界初の汎用コンピュータ-ENIAC

教育基本法、学校教育法公布される。

トランジスター誕生
(バル研ショックレーら)

1949 → 1951

●昭和24年

●昭和26年



真島利行博士

- ・明治7(1874)年生 京都府京都市出身
- ・明治22(1889)年 東京帝国大学理科大学化学科卒業
- ・有機化学者、元大阪帝国大学総長

東工大の基礎化学の研究・人事の基礎を築き、星野敏雄教授も真島博士に学んだ人である。ウルシの主成分ウルシオール構造解明をはじめ、多数の天然物の抽出、構造決定・合成に大きな業績を挙げるとともに多数のすぐれた有機化学研究者を育て、昭和5年には北海道帝大理学部、昭和6年には大阪帝大理学部創設責任者となり、のち昭和18～21年には大阪帝大総長を務めた。

■学習案内(昭和25年度・抜すい)

学部における授業科目は、一般教養科目、外国語、体育科目及び専門科目からなりたっている。これらの授業科目は、8学期間若しくはそれ以上にわたって適当に履修し、要求された以上の単位を履修すればよい。(中略)

本学の学部には、定員をきめた専門の「科」は設けていないが又教養学部と専門学部との判然たる区別もない。従って学生は、自分で目標を定め、計画をたて、次第に専門化していけばよい。その目標の基準として10コース(数学、物理学、化学、機械工学、電気工学、化学工学、金属工学、繊維工学、建築学、経営工学)を示してある。これらは、工業

■年月日	■蔵前工業会の歩み	■理事長
昭和24(1949)年5月31日		
昭和24(1949)年6月22日		
昭和24(1949)年7月8日		
昭和24(1949)年7月9日	会館敷地を、本会が元子爵吉川家より購入した(総額 62万9,500円)。	
昭和24(1949)年11月3日	真島利行博士、文化勲章受章(有機化学)	
昭和25(1950)年3月1日	会館は、屋上に7階365.89㎡(110.68坪)および塔屋を増築した。	
昭和25(1950)年6月14日		
昭和26(1951)年	会誌1・2・3月合併号(No.491)より誌名を『蔵前工業会誌』に復した。	
昭和26(1951)年3月20日	会館7階増築資金に充当するため、新株式20万株を発行、400万円の増資を行った(発行済株式総数 215,000株、新資本金額 430万円)。	
昭和26(1951)年4月1日		
昭和26(1951)年5月2日		⑮石川 等 (明治43・電気)
昭和26(1951)年5月26日	母校創立70年記念祝賀会の席上で、記念事業計画が発表され、「東京工業大学創立70年記念会」が発足した。 会長に和田小六学長が就任。事務所を蔵前工業会に置く。 目的を「母校が本来の機能を充実強化し新制大学の使命を達するに必要な講堂、体育館等を建設すること」に定め、募金目標3,000万円以上。	

の諸分野と本学の教授能力とを勘案して定めたものである。学生は初めの4学期間に、共通的な授業科目のほかに、それぞれのコース案内に要求されている基礎専門科目を修得して、高学年に設けた専門科目を申告する資格を整える必要がある。その資格を得たならば、コースの定めた標準課程を参考として、自分の目標に到達するのに必要な課目を修得し、最後にその専門分野について卒業研究を完了すればよい。

卒業迄に履修する総単位数は、学則第12条によって、120単位以上、体育4単位以上で、120単位中には36単位以上の一般教養科目が含まなければならない。

	1	2	3	4	5	6	7	8学期
一	般	教	養					
			基礎専門科目		専	門	科	目
外	国	語						
体		育			外	国	語	
					教	職	科	目

標準的な履習課程



附属工業高校の校庭(昭和33年)

■東京工業大学の歩み

国立学校設置法公布。これにより、国立東京工業大学が設置され、工学部が置かれる。旧制東京工業大学、同附属予備部および同附属高等工業教員養成所は新制に包括され、**建築材料研究所、資源化学研究所、精密機械研究所、窯業研究所、電気科学研究所**及び**燃料科学研究所**を附置。

事務組織の改正により、事務局、教務部、工学部事務局、附置研究所事務部、附属図書館事務部を設置。

新制第1回入学式を挙げる。

「体育」が授業科目に採用されたことにより、体育系を設置。

千葉大学東京工業専門学校附属電波工芸高等学校及び同附属工芸高等学校が本学附属工業高等学校として移管された。

創立70周年を迎える。

■学長

■科学分野の動き/社会の動き

湯川秀樹氏に日本人初のノーベル賞



ノーベル賞授賞式の湯川秀樹氏(左)

RCAがカラーテレビ開発
最初の腎臓移植(アメリカ)

1952 → 1954

●昭和27年

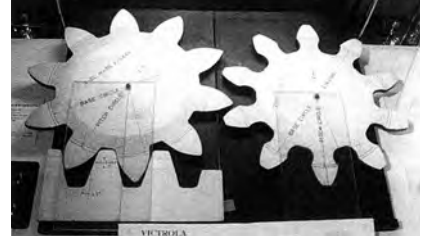
●昭和29年



中田 孝名誉教授

- ・明治41(1908)年生 東京都出身
- ・昭和4(1929)年 東京工業大学機械工学科卒業
- ・東京工業大学名誉教授、学士院会員

昭和4年頃歯車運転試験の理論解析に独特のモビリティ法を開発した。転位歯車の研究は、この試験歯車を作るために行った。昭和30年頃から、自動制御の技術を応用して大型精密親歯車ホブ盤の高精度を試み、割出し誤差4秒(角度)以内の機械を完成させた。これは、自動制御技術の誤差補正への初めての応用として世界的に注目された。昭和34年に、わが国最初の数値制御旋盤を作り、NC工作機械開発の道を開いた。



昭和28年5月に中田教授が天皇陛下にご進講した際に使用した転位歯車の創成モデル

年月日	蔵前工業会の歩み	理事長
昭和27(1952)年3月31日		
昭和27(1952)年5月25日	総会において、卒業後50年経過した会員の会費を免除する優遇措置を決定した。	
昭和27(1952)年8月		
昭和28(1953)年3月26日		
昭和28(1953)年4月1日		
昭和28(1953)年5月	中田 孝名誉教授、日本学士院賞(歯車に関する研究)を受賞した。昭和63年12月22日、日本学士院会員に推される。	
昭和28(1953)年5月2日		⑩佐野 隆一 (明治43・応用化学)
昭和28(1953)年5月9日		
昭和28(1953)年9月1日		
昭和28(1953)年11月3日	板谷波山氏、文化勲章受章(陶芸)	
昭和28(1953)年12月31日	「東京工業大学創立70年記念会」の募金を終了した。 ・応募額 5,195万9,665円。	
昭和29(1954)年	会誌1月号(No.497)よりA5版に改め、戦後不定期刊行となっていたものを隔月発行とした。	
昭和29(1954)年3月31日		



板谷波山氏

・明治5年生(1872) 茨城県下館市出身
・明治27(1894)年 東京美術学校彫刻科卒業
・陶芸家、東京高等工業学校窯業科嘱託(明治36年～大正2年)
明治36年ごろから陶芸に志し、当初は当時輸出用陶器とされたマジョリカ焼の制作に中心となっにかかわっていた。
以後、アール・ヌーヴォー様式の図案研究によって国内陶芸家達を刺激し、加えて東洋陶器の伝統を踏まえ、そこに西洋陶器の技法を導入させた。このパイオニア的活動が高く評価されている。



東京高等工業学校
創立25周年記念
マジョリカ額皿
(蔵前工業会所蔵)

■東京工業大学の歩み

国立学校設置法の改正により、附属予備部および附属高等工業教員養成所を廃止。

大学院を設置することが告示され、工学研究科と指定された。4月1日より施行(政令第51号)。

大学院工学研究科に、応用物理学、化学および化学工学、機械工学、電気工学、金属工学、繊維工学、および建築学の7専攻を設置。

大学院修士課程の入学式を挙行政した。

学科課程委員会規程施行される。

国立学校設置法の改正により、従来設置していた研究所(建築材料研究所、資源化学研究所、精密機械研究所、窯業研究所、電気科学研究所、燃料科学研究所)を建築材料研究所、資源化学研究所、精密工学研究所及び窯業研究所に整備し、学部印刷技術研究施設を設置。

■学長

内田 俊一



内田俊一 学長

■科学分野の動き/社会の動き

サンフランシスコ平和条約

NHKと日本テレビがテレビ放送開始



家庭におかれた初期のテレビ受像器

DNA2重螺旋構造解明
ポリオワクチン(アメリカ)



ソーク博士
エベレスト初登頂

原子力発電実用化の開始
ビルの開発(アメリカ)
初の原子力潜水艦ノーチラス号
進水(アメリカ)
最初の有人潜水調査船バチスカーフ号
アフリカ沖4050m潜水(フランス)

1955 → 1958

●昭和30年

●昭和33年

八木秀次元学長

- ・明治19(1886)年生 京都府出身
- ・明治42(1909)年 東京帝大電気工学科卒業
- ・東京工業大学元学長 元技術院総裁

大学卒業後、仙台高工教授を経て大正2年、東北帝大電気工学科創設にかかわった。大正10年頃、将来の通信が短波から超短波へ向かうと見通し、いち早くこの分野の研究に着手した。大正14年「短波長電波の発生」を発表、翌年宇田新太郎氏が「短波長ビームの研究」を発表して八木・宇田アンテナの発明となった。研究は精魂を傾注することをモットーに研究の背景づくりに尽力した。



加藤与五郎名誉教授

- ・明治5(1872)年生 愛知県出身
- ・明治36(1903)年 京都帝大理工科大学純正化学科卒業
- ・東京工業大学名誉教授

昭和4年コロイド科学の研究で理学博士の学位を取得、武井武氏とともに、フェライトの研究を始め、昭和5年酸化鉄 Fe_2O_3 と酸化亜鉛から鉄亜鉛フェライトを合成、昭和8年にはコバルトフェライトの磁場中冷却効果(誘導磁気異方性)、また銅-亜鉛系フェライトにおける際立った軟磁性(弱い磁場によって強い磁束密度を生じる性質)を発見、フェライト研究を進展させ、工業化に貢献、またフェライトの他にも多数の創造的研究成果を挙げた。

年月日	蔵前工業会の歩み	理事長
昭和30(1955)年	会誌1月号より体裁を横組みに変更した。	
昭和30(1955)年5月2日		⑰高田 良作 (明治40・機械)
昭和30(1955)年7月1日		
昭和31(1956)年4月1日		
昭和31(1956)年11月3日	八木秀次元学長、文化勲章受章(電気工学)	
昭和31(1956)年11月14日	手島工業教育資金団再建資金の募集が開始され、本会はこの協力を。募金目標 2,000万円	
昭和32(1957)年4月1日		
昭和32(1957)年11月3日	加藤与五郎名誉教授、文化功労者顕彰(フェライトの開発)	
昭和32(1957)年12月31日	手島工業教育資金団再建資金の募集を終了した。応募額2,970万円。	
昭和33(1958)年3月31日		
昭和33(1958)年4月7日	蔵前技術士会が結成された。目的は技術士国家試験の受験指導、相互懇親連絡を図ること。豊田竜三郎、貞方忠一らが中心。	
昭和33(1958)年8月		
昭和33(1958)年11月21日	「東京工業大学創立70年記念会」の募金による講堂と体育館が完成し、建造物贈呈と功労者の表彰式が会館で行われた。	



東京工業大学歌
 (昭和三十二年制定)
 三好 達治 作詞
 諸井 三郎 作曲

一、逝くものは 斯のごときか
 長江は昼と夜となし
 はるけき日 ゆかしきいさを
 指す方のはた弱みなき
 嘆じてん聖さびはや

二、悠久の黄金の環
 めぐりくる陽は久方ゆ
 青春の園生にたらふ
 手力はわがもろ腕に
 重き扉をいざ若人よ

三、くろがねの扉を開け
 工人よ窮理者よ友
 かつは見よ みどりの木の間
 すばる星 灯を点じたり
 友垣が七つの窓へ

四、七彩のもの文すべ
 ただ光 彼方に白し
 さやかなり 月毛なりかし
 騎してゆけはるけくもこそ
 大き岡 こえていく岡



工業材料研究所の電子顕微鏡

■東京工業大学の歩み

■学長

■科学分野の動き/社会の動き

国立学校設置法の改正により、工学部は理工学部へ改称される。数学、物理学、化学、化学工学、機械工学、電気工学、金属工学、繊維工学、建築学および経営工学の10学科を置く。

理工学部へ原子炉研究施設を設置。大学院研究科は工学研究科から理工学研究科へ改称される。(数学、物理学、化学、化学工学、金属工学、繊維工学、機械工学、電気工学および建築学の9専攻)

大学院理工学研究科へ原子核工学専攻を設置。

国立学校設置法の改正により、建築材料研究所および窯業研究所を統合し、工業材料研究所を附置。

数値制御機械開発

日本、国際連合に加盟

スプートニク第1号



人工衛星スプートニク第1号打上げ(ソ連)
 最初の商業用原子力発電所(アメリカ)
 インスタントラーメン発売

山内俊吉 学長



山内 俊吉

1959 → 1963

●昭和34年

●昭和38年



創立70年記念講堂(昭和33年)
設計:谷口吉郎教授



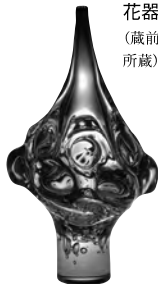
創立70年記念体育館(昭和33年)



各務鑛三氏
 ・明治29(1896)年生
 岐阜県笠原町出身
 ・大正3(1914)年
 東京高等工業学校図
 案科選科修了
 ・ガラス工芸家
 板谷波山氏の後任で、
 母校の嘱託として奉職し
 ていたが、大正7年、満鉄

年月日	蔵前工業会の歩み	理事長
昭和34(1959)年5月1日		⑱西 濟 (明治39・機械)
昭和34(1959)年11月13日	戦前に行われていた「蔵前午餐会」を復活し、毎月開催した。これは、昭和23年に始めた講演会とともに昭和49年から東京支部の主権に移された。	
昭和35(1960)年4月1日	会誌が月刊となる(1月号より)	
昭和35(1960)年5月11日		⑲野沢 一郎 (明治43・機械)
昭和35(1960)年5月24日	各務鑛三氏、日本芸術院賞受賞(ガラス工芸)	
昭和36(1961)年4月1日		
昭和36(1961)年5月19日		
昭和36(1961)年5月26日		
昭和36(1961)年6月1日	母校創立80年を記念して、「東京工業大学総合研究館建設事業資金募金会」が発足した。会長に高田良作元理事長が就任、事務所を母校内においた。募金目標 8億円。	
昭和36(1961)年7月	会館の新装が完成し、5階全室が会員の会合に使用できるようになった。	
昭和36(1961)年11月3日	田中芳雄博士、文化功労者顕彰(有機化学)	
昭和37(1962)年2月1日		
昭和37(1962)年4月1日		
昭和37(1962)年8月		
昭和38(1963)年3月31日		

に転職し、ドイツ人技師のもとでグラヴィール加飾法を修得した。昭和2年ドイツの国立シュトゥットガルト美術工芸学校に留学し、クリスタルガラスの研究やエッチングなどの加飾技法を学んだ。昭和4年に帰国、帝展にガラス工芸品を出品して活躍。多様で高度な技術と近代的な造形感覚を駆使して精度の高い作品を生み出し、ガラス工芸をわが国の近代工芸界に位置づけた。西洋の美感の上に日本の美意識を盛り込んだ独自の芸術に昇華したのである。



花器
(蔵前工業会
所蔵)



田中芳雄博士

- ・明治14(1881)年生 埼玉県出身
- ・明治38(1905)年生 東京帝大工学部応用化学科卒業
- ・東京大学名誉教授

油脂・石油・ゴム等を研究、大正・昭和初期の工業化学分野の総師として活躍、東工大の応用化学、化学工学分野の研究と人事の基礎を築いた。昭和2年、「本邦産石油の成分並びに応用に関する研究」で学士院賞受賞。昭和4年4月から本学応用化学科教授を兼務し、臨時室素研究所(現東京工業試験所)から内田俊一元学長を招くのに尽力した。

■東京工業大学の歩み

■学長

■科学分野の動き／社会の動き

- ・理工学部、無機材料工学科、工業化学科、制御工学科、電子工学科の4学科を設置。
- ・東京工業大学運営会議を設置し、運営委員会を廃止。

レーザー誕生

理工学部に応用物理学科を設置。

工業教員養成所を設置。

創立80年記念式典を挙げる。

世界初の有人人工衛星船ポストーク号打上げ成功



ポストーク号

財団法人東京工業大学後援会を設立。

理工学部高分子工学科、応用電気化学科および生産機械工学科を設置。

大学院研究科の名称および課程を理工学研究科(5年課程)と定める(政令第96号)。

大山義年 学長



大山 義年

国産第1号研究用原子炉に点火
アメリカ通信衛星テルスター打上げ

1963 → 1967

●昭和38年

●昭和42年



校門より本館を望む(昭和30年代)



本館裏の工場地帯(昭和30年代)



石川台地区の研究所の建物。左から資源化学研究所、工業材料研究所、精密工学研究所(昭和30年代)

■年月日	■蔵前工業会の歩み	■理事長
昭和38(1963)年4月1日		
昭和38(1963)年5月1日		⑳大谷 元夫 (大正9・電気)
昭和38(1963)年11月3日	古賀逸策名誉教授、文化勲章受章(電気工学)	
昭和39(1964)年4月1日		
昭和39(1964)年5月13日		㉑石毛 郁治 (大正6・応用化学)
昭和39(1964)年11月3日	茅 誠司博士、文化勲章受章(物理学)	
昭和40(1965)年4月1日		
昭和40(1965)年9月	「会館増改築調査委員会」が発足した。	
昭和41(1966)年3月1日	会館の新株式 645,000株を発行し、1,290万円の増資を行った。 (発行済株式総数 86万株、新資本金額 1,720万円) 同資金は、昇降機、暖房用汽缶、電気設備の入れ替え整備に充当し、工事を実施した。	
昭和41(1966)年4月1日		
昭和41(1966)年8月		
昭和42(1967)年4月1日		



古賀逸策名誉教授

・明治32(1899)年生 佐賀県鳥栖市出身
 ・大正12(1923)年 東京帝大工学部電気工学科卒業
 ・東京工大名誉教授、東京大学名誉教授
 卒業後、水晶の研究に取り組み、分周器を発明、その原理を発見した。その後、無線放送器用の水晶振動子の研究を行い、R₁R₂と称する周波数温度係数10⁻⁷/°Cの水晶振動子を発明した。これを基に水晶時計を開発し、KQ₁~KQ₂まで製作し、この研究によって、世界の無線通信技術や時計は飛躍的に発展した。



茅 誠司博士

・明治31(1898)年生 神奈川県愛川町出身
 ・大正9(1920)年 東京高等工業学校電気科卒業
 ・大正12(1923)年 東北帝大理学部物理学科卒業
 ・東京大学名誉教授、元学長
 卒業後、磁性体の研究に入り、留学先で、ニッケル、マンガンの磁性研究に従事した。帰国後、磁化の機構などの研究を続け、昭和17年「強磁性結晶体の磁気研究」で学士院賞を受賞。戦後、日本学術会議の設立など学術研究体制の確立に貢献。「小さな親切運動」を提唱。

■東京工業大学の歩み

理工学部¹に酵素化学研究施設を設置。工業化学科を合成化学科と改称する。

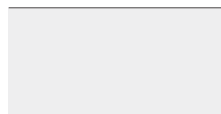
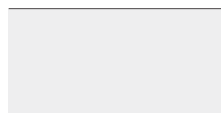
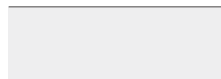
原子炉研究施設を廃止し、原子炉工学研究所を附置。理工学部¹に土木工学科を設置。大学院理工学研究科に制御工学、経営工学および電子工学専攻を設置。印刷技術研究施設は、印写工学研究施設と改称する。

理工学部¹に電子物理工学科を設置。大学院理工学研究科に応用物理学専攻設置。酵素化学研究施設を天然物化学研究施設と改称する。

大学院理工学研究科に高分子工学、電気化学および生産機械工学専攻を設置。

理工学部¹に社会工学、機械物理工学科を設置。大学院理工学研究科に無機材料工学および合成化学専攻を設置。

■学長



實吉純一 学長



實吉 純一

■科学分野の動き／社会の動き

最初の肝臓移植に成功(アメリカ)

クオーク理論
 東海道新幹線開通
 東京オリンピック



東京オリンピックの開会式
国産旅客機YS11初就航

ソ連ルナー9号、月に軟着陸

1967 → 1969

●昭和42年

●昭和44年



濱田庄司氏

- ・明治27(1894)年生 神奈川県川崎市出身
- ・大正5(1916)年 東京高等工業学校窯業科卒業
- ・陶芸家、人間国宝(民芸陶器)

卒業後、京都陶磁器試験所に入所。河井寛次郎氏とともに窯場見学などを積極的に行い、陶磁器の技術習得に努め、また、科学的な釉薬の研究を行った。大正9年渡英し、バーナード・リーチ氏とともに陶芸製作に励む。大正13年帰国後、益子で作陶を始める。以後、作陶の傍ら柳宗悦氏、河井寛次郎氏、芹沢銈介氏らと共に「民芸」という思想に基づく新しい美の中心的存在のひとりとなり、今日の民芸思想をつくりあげた。優秀な民芸派系陶芸家を育成したことも特筆される。



柿釉鐵絵青差
大鉢(赤絵皿)
(蔵前工業会所蔵)

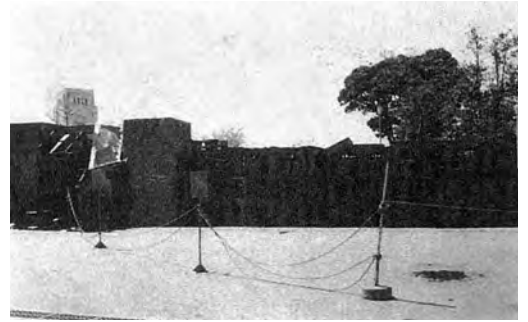
年月日	蔵前工業会の歩み	理事長
昭和42(1967)年5月11日		②土光 敏夫 (大正9・機械)
昭和42(1967)年6月1日		
昭和42(1967)年6月12日		
昭和43(1968)年1月23日	会館の新株式86万株を発行、1,720万円の増資を行った。 (発行済株式総数 172万株、新資本金額 3,440万円) 同資金は、屋上防水、7階窓部防水、各階便所、階段室サッシ更新、ならびに修理、暖房主配管更新、会員倶楽部室改装等に充当し、工事を実施した。	
昭和43(1968)年1月26日		
昭和43(1968)年4月1日		
昭和43(1968)年10月		
昭和43(1968)年11月3日	濱田庄司氏、文化勲章受章(陶芸)	
昭和44(1969)年1月23日		
昭和44(1969)年1月30日		
昭和44(1969)年3月8日		
昭和44(1969)年3月18日	母校卒業式が紛争により中止されたため、恒例の卒業祝賀入会歓迎会は取りやめた。	
昭和44(1969)年4月1日		



本館東側の並木道



原子炉工学研究所一帯(昭和40年代)



大学紛争時の学生側による大学封鎖(昭和44年2月10日)

■東京工業大学の歩み

理工学部は理学部と工学部に分割される。天然物化学研究施設は理学部に、
印写工学研究施設と附属工業高等学校は工学部に置く。

評議会規則が定められ、学長以下10名が評議員に併任される。運営会議規
程を廃止する。

東京工業大学協議会規則を制定。2月1日に第1回を開催。

大学院理工学研究科に土木工学専攻を設置。

5寮委員会と学長及び評議会メンバーとの団交が開始される

学友会執行委員会により全講義室が封鎖される。

長津田地区に研究所を主とした第2キャンパスを建設することになり、その推
進のため、岡部地区利用委員会が発足する(委員長 加藤六美教授)。

工業教員養成所を廃止。
大学院理工学研究科に電子物理工学専攻を設置。

■学長

斯波 忠夫



斯波忠夫 学長

■科学分野の動き/社会の動き

公害対策基本法
最初の心臓移植(南ア)

ボーイング747 1号機
RCA液晶技術発表
日本初の心臓移植(札幌医大)



心臓移植手術をする医師団

アポロ月面着陸(アメリカ)



月面に立つオールドリン飛行士
コンコルド超音速飛行(フランス、
イギリス)

1969 → 1970

●昭和44年

●昭和45年



大学紛争時、大学側による門前集会（昭和44年3月24日～27日） 講堂前での学生同士の衝突（昭和44年5月8日）

大学紛争のため新入生は教官の自宅で「寺子屋教育」（昭和44年4月）朝日新聞社提供

■年月日	■蔵前工業会の歩み	■理事長
昭和44（1969）年4月14日		
昭和44（1969）年4月16日		
昭和44（1969）年5月29日		
昭和44（1969）年7月7日		
昭和44（1969）年7月10日		
昭和44（1969）年9月	<p>「都市再開発調査委員会」を設置。この委員会は新橋駅前の市街地改造適用事業として新橋駅ビルがすでに完成し、引き続き新橋西口ビル、国鉄新橋駅地下駅化工事が計画され、一方、新橋2丁目町内会においても会館を含めて、合同ビル建設の構想が持たれるに至り、これら会館周辺の動向ならびに対応策について調査検討のため設けられた。以後、</p> <p>昭和46年10月 市街地再開発に関する懇談会に改組。 48年10月 会館改築に関する委員会に改組。 50年 会館改築・改装・整備委員会に改組。 その都度、事態に対処、または、将来のあり方について検討した。</p>	
昭和44（1969）年9月1日		
昭和44（1969）年10月		
昭和45（1970）年3月9日		
昭和45（1970）年3月11日		
昭和45（1970）年3月25日		
昭和45（1970）年4月		



学生による不法占拠の封鎖解除(昭和44年7月10日)



長津田キャンパス建設用地



長津田キャンパスの設計模型

■東京工業大学の歩み

- ・『東京工大クロニクル』を創刊する。
- ・学内紛争解決のため、臨時に広報委員会、交渉委員会および設営委員会を設置。

全学教授会で「東京工業大学改革案」を発表する。

本学の現状を総点検する第一回の会合を開催する。

田町校舎で、新入生への正規の授業を開始する。

機動隊を導入して封鎖を解除し、大岡山キャンパスをロックアウトする。

大岡山校舎で授業再開。

岡部地区における研究教育組織の新構想を発表する。

岡部地区利用委員会が再発足する。

長津田建設計画室(学長付)を設置。

類別入学を実施する。

■学長

■科学分野の動き/社会の動き

大阪万博のシンボル「太陽の塔」
(岡本太郎デザイン)



大阪万博
光ファイバー実用化
国産人工衛星「おおすみ」

加藤 六美



加藤六美 学長

1970 → 1972

●昭和45年

●昭和47年



向岳寮の集会所



トレーニングセンターにおける授業



社工棟(昭和46年)

■年月日	■蔵前工業会の歩み	■理事長
昭和45(1970)年4月1日		
昭和45(1970)年6月12日		
昭和45(1970)年9月27日		
昭和45(1970)年11月6日		
昭和46(1971)年4月		
昭和46(1971)年4月1日		
昭和46(1971)年4月20日		
昭和46(1971)年5月11日		㊦大久保 謙 (大正10・機械)
昭和46(1971)年7月21日		
昭和46(1971)年10月11日		
昭和46(1971)年11月末		
昭和47(1972)年	会誌2・3月合併号、7・8合併号を設け、年10回発行とした。	
昭和47(1972)年1月4日		
昭和47(1972)年3月6日		



新食堂(昭和46年)



情報処理センター



保健管理センター(昭和47年)

■東京工業大学の歩み

理学部に情報科学科を設置。工学部応用電気化学科を電気化学科と改称。大学院理工学研究科に社会工学専攻を設置。

向学寮から学生を強制退去させ、同時に寮の取り壊しを行った。

学友会本部室を閉鎖し、使用禁止とする。

トレーニングセンターを開設する。

- ・東京大学工学系大学院との単位相互認定を実施する。
- ・高温核燃料要素実験室が完成し、実験を開始する。
- ・社工棟が完成し、後期から使用を開始する。

- ・工学部繊維工学科を有機材料工学科と改称。
- ・大学院理工学研究科に機械物理工学専攻を設置。
- ・保健管理センターを設置。

学生室が学生相談室となる。

学内共同利用施設として、情報処理センターを設置。

新食堂が営業を開始する。

情報処理センターの建物が竣工する。

情報処理センターが稼働を開始し、これに先立ち学内共同利用電子計算機の稼働を12月末に停止。

工業高等専門学校卒業者に編入学の試験を実施する。

■学長

■科学分野の動き/社会の動き

札幌オリンピック。スキージャンプ70m表彰式で喜ぶ日本勢



札幌オリンピック
ローマクラブ「成長の限界」

1972 → 1974

●昭和47年

●昭和49年



教育学開発センターのスタジオ



附属図書館新館(本館・昭和48年)



手島精一先生の座像。右は銘記

年月日	蔵前工業会の歩み	理事長
昭和47(1972)年4月		
昭和47(1972)年4月1日		
昭和48(1973)年1月31日	母校創立80年を記念して行なわれた「東京工業大学総合研究館建設事業資金募金会」の募金は、応募額 6億5,440万3,758円をもって終了した。	
昭和48(1973)年4月1日		
昭和48(1973)年5月7日		
昭和48(1973)年6月1日	母校内の手島精一先生銅像台座改築ならびに遷座募金を行った。 ・応募額 913万8,000円	
昭和48(1973)年8月1日		
昭和48(1973)年10月		
昭和48(1973)年10月20日	手島精一先生銅像新台座が完成し、遷座式を挙行了。 なお、募金残額 215万4,949円は(財)手島工業教育資金団へ寄付した。 また、昭和55年4月14日 加藤六美前学長による銘記が完成し、これをもって銅像の整備を完成した。	
昭和48(1973)年11月3日	谷口吉郎名誉教授、文化勲章受章(建築設計)	
昭和49(1974)年3月29日		
昭和49(1974)年4月		



谷口吉郎名誉教授

- ・明治32(1904)年生 石川県金沢市出身
- ・昭和3(1928)年 東京帝大工学部建築学科卒業
- ・東京工業大学名誉教授

作風は、「清らかな意匠」という彼自身の言葉に要約される。その作品は文学碑から工場建築まで多岐にわたるが、一貫して求め続けたのは、強靱な合理精神に裏打ちされた詩的で品のある表現であった。昭和初期には当時の西欧の新建築への傾倒が見られ(代表作、東工大水力実験室)、ドイツの建築家シケルの作品に接して以後、日本の建築的な伝統を現代に継承していくことが彼の最大のテーマとなった(代表作、藤村記念堂)。また、明治の文化遺産保存のため博物館明治村を設立し初期館長を務めた。



藤村記念堂(平山忠治氏撮影)

■東京工業大学の歩み

保健管理センター建物が竣工する。9月1日から業務を開始する。

大学院理工学研究科に物理情報工学専攻を設置。

- ・教育工学開発センターを設置。
- ・学生災害互助会が発足する。
- ・工学部の化学工学科、合成化学科及び電気化学科を改組し、化学工学科を設置。
- ・大学院理工学研究科に電子化学、社会開発工学、精密機械システムの3専攻を設置。

図書館新館が開館し、16日竣工記念式典を挙げる。

東京大学と東京工業大学との学生交流に関する協定書を締結する。

長津田移転本部設置要項を制定、長津田移転本部を新設。

創立100年記念事業準備会を設置。

■学長

川上 正光



川上正光 学長

■科学分野の動き/社会の動き

コーエン最初の遺伝子組み換え(アメリカ)
オイルショック



オイルショックでトイレtpーパーを求める人々

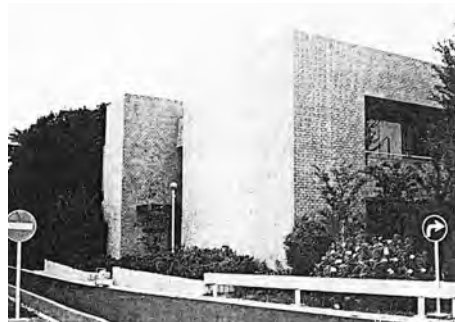
1974 → 1976

●昭和49年

●昭和51年



創立80年記念「総合研究館」(長津田キャンパス・昭和50年)



創立80年記念会議室(大岡山キャンパス・昭和51年)



記念会議室内の野沢記念室(野沢一郎氏(明治43・機械)記念)

年月日	蔵前工業会の歩み	理事長
昭和49(1974)年4月1日		
昭和49(1974)年4月11日		
昭和49(1974)年5月11日		②田中 勇 (大正15・電気)
昭和49(1974)年7月5日	母校に「東京工業大学百年史編集委員会」が発足し、本会はこれに協力することにした。	
昭和49(1974)年12月5日		
昭和50(1975)年4月1日		
昭和50(1975)年9月4日	創立80年記念募金による「総合研究館」が長津田キャンパスに竣工した(総面積5,603㎡)。	
昭和50(1975)年9月5日		
昭和50(1975)年10月9日		
昭和50(1975)年11月8日		
昭和51(1976)年1月13日	大岡山キャンパスに「創立80年記念会議室」が竣工し、昭和51年1月31日贈呈が行われた(総面積704㎡)。	
昭和51(1976)年3月17日	会員の入会方式として昭和48年度から実施された「希望者入会方式」に代えて「卒業生即会員の方式」を復活させた。	
昭和51(1976)年5月10日		



附属工業高等学校正面(昭和50年ごろ)



附属工業高等学校の全景(昭和46年)



総合情報処理センター、M28HのCPUと主コンソール

■東京工業大学の歩み

- ・工学部の電気工学、電子工学および電子物理学工学の各科を改組し、新たに電気・電子工学、電子物理学および情報工学科を設置。
- ・大学院理工学研究科に材料科学、電子システム、化学環境工学専攻を設置。

資源化学研究所に附属資源循環研究施設を設置。

「東京工業大学百年史委員会」が発足する。

「大岡山現代講座」開始。(「東工大現代講座」と改称し、現在に至る)

大学院総合理工学研究科を設置。既設の7専攻に生命科学、エネルギー科学、システム科学の3専攻を加えて計10専攻で出発する。

長津田地区「総合研究館」の竣工式があり、同日付で大学の施設として文部省へ寄付される。

総合理工学研究科の物理3専攻が長津田地区の総合研究館へ移転。

精密工学研究所、工学部像情報工学施設が長津田地区新棟へ移転完了。

工学部附属工業高等学校の創立90周年記念式典を開催する。

「創立80年記念会議室」が竣工する。

- ・工業材料研究所に附属水熱合成材料実験施設を設置。
- ・学内共同利用施設として総合情報処理センターを設置。

■学長

■科学分野の動き／社会の動き

沖縄海洋博



海洋博のシンボル「アクアポリス」(人工海上都市)

アップル誕生：パソコンの普及

1976 → 1978

●昭和51年

●昭和53年



芹沢銈介氏

- ・明治28(1895)年生 静岡県静岡市出身
- ・大正5(1916)年 東京高等工業学校工業図案科卒業
- ・染色工芸家、人間国宝(型絵染)

当初蠟染を手がけていたが、柳宗悦の論文に触発され、特に沖縄の紅型染の影響を強く受けて独特の染織物をつくり出した。その後、伝統的な型染を発展させ、自ら製作工程に創造性を生かした独自の芸術的領域をもち型絵染の世界を構築した。昭和31年に芹沢は「型絵染」の重要無形文化財保持者(人間国宝)に指定される。また、大原美術館(倉敷)の工芸館を増設する際には、配置と内外装等の設計を担当し、建築意匠分野でも、その才能を発揮した。

春夏秋冬文字文
夜具地(部分)



年月日	蔵前工業会の歩み	理事長
昭和51(1976)年7月17日		
昭和51(1976)年11月3日	芹沢銈介氏(型絵染)と沼知福三郎博士(水力機械学)、文化功労者顕彰	
昭和51(1976)年11月16日	手島工業教育資金団60周年募金が始動され、本会はこれに協力する。本募金は、昭和53年11月15日終了した。・応募額 1億6,219万2,100円	
昭和51(1976)年12月11日		
昭和51(1976)年12月20日		
昭和52(1977)年2月		
昭和52(1977)年2月1日		
昭和52(1977)年3月		
昭和52(1977)年8月10日		
昭和52(1977)年10月		
昭和52(1977)年11月	会館全階の便所、給排水管、宿泊部浴室の全面改修工事が完了した。	
昭和53(1978)年		
昭和53(1978)年2月15日	昭和24年より行われてきた卒後50年経過者祝賀の記念品図柄を、従来の「母校蔵前旧校舎図入額皿」から「母校大岡山校舎図入陶板」に変更した。	
昭和53(1978)年4月1日		
昭和53(1978)年5月11日		㊦白澤 富一郎 (大正15・電気)

沼知福三郎博士

- ・明治31(1898)年生
 - ・大正8(1919)年 東京高等工業学校応用化学科卒業
 - ・大正11(1922)年 東北帝大機械工学科卒業
 - ・東北大学名誉教授
- 空洞現象、高速水準などの研究。昭和25年に「翼型の空洞現象に関する研究」で日本学士院賞を受賞、また昭和34年に「高落差カプラン水車(殿山発電所)」の研究・設計で第1回機械学会賞を受賞している。



松風学舎(横浜市青葉区松風台・昭和52年)



卒業50年記念品の陶板画「大岡山深秋」(日本芸術院会員 渡辺武夫画伯)

■東京工業大学の歩み

東京工業大学管弦楽団が創立50周年記念演奏会を開催する。

第2回総合研究館公開講座を開催する。

早稲田大学、慶應義塾大学との「3大学大学院間協力について」の合意書が成立する。

留学生会館が完成し、中旬募集を開始、4月に開館する。

総合情報処理センターでM-180システムが稼動を開始する。

原子炉工学研究所に広領域線質放射線照射実験施設が完成する。

大学院総合理工学研究科の化学3専攻、事務部、資源化学研究所、理学部附属天然物化学研究施設が長津田地区へ移転。

大学院理工学研究科の電気工学、電子工学および電子物理工学専攻を改組し、電気・電子工学、電子物理工学および情報工学専攻を設置。

旧恩田寮が松風学舎(川上学長命名)と改称され、新たに発足する。

■学長

齋藤 進六



齋藤進六 学長

■科学分野の動き/社会の動き

イギリス 試験管ベビー誕生

1978 → 1980

●昭和53年

●昭和55年



武井 武名誉教授

- ・明治32(1899)年生 埼玉県与野町出身
- ・大正9(1920)年 東京高等工学校電気化学科卒業
- ・昭和2(1927)年 東北帝大理学部化学科卒業
- ・東京工業大学名誉教授、慶應義塾大学名誉教授

加藤与五郎教授のもとで、亜鉛の湿式冶金方式を改良するために亜鉛フェライトの研究に着手し、基礎的究明から始めて磁気特性も測定した。その過程で、コバルトフェライトにおける磁場中冷却効果及び銅-亜鉛系フェライトにおける極だった軟磁性という新現象を発見した。この研究成果は、戦後トランジスタラジオの出現などで需要増大し、さらに電波・通信工業の発展に伴って多方面に使われている。



附属図書館長津田分館(昭和54年)

年月日	蔵前工業会の歩み	理事長
昭和53(1978)年10月1日		
昭和53(1978)年11月3日	武井 武名誉教授、文化功労者顕彰(フェライトの開発)	
昭和54(1979)年1月13日~14日		
昭和54(1979)年2月	「新会館建設調査委員会」を設置。この委員会は、昭和53年8月会員500名を対象にアンケートを実施した結果、母校創立百年を機とする計画として、新改築に賛成の意見が多く、現会館の改修・建築・建て直し・新築移転等それぞれについて調査を行い、試案を作成することを目的として設けられた。	
昭和54(1979)年4月1日		
昭和54(1979)年4月3日		
昭和54(1979)年5月26日		
昭和54(1979)年6月		
昭和54(1979)年7月		
昭和54(1979)年11月24日	母校「長津田キャンパス開設記念式典」が挙行政され、白澤理事長ほか役員が出席した。	
昭和55(1980)年2月	「新会館建設調査委員会の調査報告書」が作成、提出された。	
昭和55(1980)年7月	新会館建設に関するアンケート委員会を設置。この委員会は、新会館建設調査委員会が作成した諸案を整理、検討することで設けられた。	
昭和55(1980)年10月9日		
昭和55(1980)年10月23日		



長津田キャンパスの全景(昭和55年)



総合理工学研究科棟(長津田キャンパス)



資源化学研究所および天然物化学研究施設(長津田キャンパス)

■東京工業大学の歩み

長津田地区に附属図書館 長津田分館を設置。

国公立大学入学者共通一次学力試験が初めて実施される。

理工学国際交流センターを設置。

附属図書館 長津田分館の建物が落成し、開館する。

大学昇格50周年を祝う記念祝賀会を開催する。

工業材料研究所が長津田地区へ移転。

大学院 総合理工学研究科の社会開発、エネルギー科学、システム科学、材料科学専攻を長津田地区へ移転。

東京工業大学創立百年記念事業概要が評議会で承認される。
東京工業大学将来計画会議設置要綱が承認される。

ハルピン工業大学との学術交流および友好協力関係に関する協定書を締結する。

■学長

■科学分野の動き/社会の動き

ソニー ウォークマン誕生



ウォークマンの1号機
(ソニー提供)

1980 → 1982

●昭和55年

●昭和57年



工業材料研究所(長津田キャンパス)

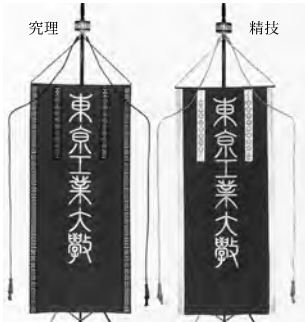


精密工学研究所および像情報研究施設(長津田キャンパス)



創立百年記念式典(昭和56年)

年月日	蔵前工業会の歩み	理事長
昭和55(1980)年11月3日	高柳健次郎博士 文化功労者顕彰(テレビジョンの開発)	
昭和56(1981)年3月19日	母校創立百年を記念して「東京工業大学百年記念事業募金」を行なう準備計画立案のため、「準備世話人会」を設けた。本会は、母校教官と本会役員による35名で構成され、第1回代表世話人会を開催した。	
昭和56(1981)年4月1日		
昭和56(1981)年5月26日	創立百年記念式典で、「究理・精技」を表徴する記念旗二旗を母校へ寄贈する。 応募金 1,242万9,085円(2,211名)	
昭和56(1981)年9月28日	「創立百年記念事業資金募金会」が充足する。	
昭和56(1981)年10月		
昭和56(1981)年11月3日	高柳健次郎博士、文化勲章受章(電子工学)	
昭和57(1982)年1月	母校創立百年を記念した「東京工業大学百年記念事業募金」を開始した。 募金目標額 12億円 ・内訳 百年記念資料館 8億円 国際交流基金設定 3億円 百年史刊行 4千万円	
昭和57(1982)年4月	学生会員制度の導入。	
昭和57(1982)年4月1日		
昭和57(1982)年5月11日		②倉田 元治 (大正14・窯業)
昭和57(1982)年8月31日	株蔵前工業会館は、外壁タイル落下防止改修等工事資金調達のため、増資を行った。 ・従来 資本金額 3,440万円(172万株) ・増加 資本金額 3,440万円(172万株) ・新 資本金額 6,880万円(344万株)	



創立百年記念旗 (手島有男東京芸術大学助教授デザイン)



高柳健次郎博士

- ・明治32(1899)年生 静岡県浜松市出身
 - ・大正10(1921)年 東京高等工業学校附設工業教員養成所電気科卒業
 - ・浜松高等工業学校教授を経て日本放送協会技術研究所、日本ビクター社に勤務。
- 大正15年に世界で初めてブラウン管にイの字を映し出すことに成功し、昭和10年には全電子式テレビを完成した。その後NHKでテレビの実用化研究を推進。戦後は、日本ビクター社でテレビ技術の高度化、VTRやビデオディスクなどの開発を指導した。



昭和11年、テレビ基礎実験中の高柳博士(右)

■東京工業大学の歩み

極低温エネルギー実験センターを設置。

創立百年記念式典を挙げる。

研究・情報交流センターを設置。

■学長

松田 武彦



松田武彦 学長

■科学分野の動き／社会の動き

スペースシャトル打上げ成功



スペースシャトル「コロンビア号」の打上げ

1982 → 1987

●昭和57年

●昭和62年

川上正光元学長

- ・明治45(1912)年生 栃木県大田原市出身
- ・昭和10(1935)年 東京工業大学電気工学科卒業
- ・東京工業大学名誉教授、元学長

電子回路学の分野に4端子マトリックスの概念を導入した。この手法は、真空管及びトランジスタの電子回路研究に極めて有力で、これらの能動素子を含む一般的電子回路の体系的構成論の確立に大きな役割を果たした。その他高選択性高周波増幅回路の研究、浜波回路網の研究、素回路の導入で成果を挙げ、特に素回路の概念は、電子回路と浜波回路を組合わせた能動浜波回路の構成に極めて有用であり国内外で大きな反響を呼んだ。このように日本の電子技術の普及発展に貢献した。

内田俊一元学長

- ・明治28(1895)年生 東京都出身
- ・大正9(1920)年 東京帝大工学部応用化学科卒業
- ・東京工業大学名誉教授、元学長

卒業後、臨時窒素研究所でアンモニア酸化による硝酸製造プロセスの工業化について研究白金代用触媒を開発し、これを使ったパイロットプラントづくりを行った。MITに学んだ後、本学に化学工学科を開講すると共に、日本の化学工学創設のひとりとなった。研究業績としては、充填塔の流動に対する相似則の適用、蒸留の気相平衡に関する研究、輻射を利用した高温ガスの温度測定法の研究がある。戦後、資源委員会(現資源協会)の副会長として、資源・エネルギー問題の解決のため尽力した。

■年月日	■蔵前工業会の歩み	■理事長
昭和57(1982)年11月3日	川上正光元学長、文化功労者顕彰(電子工学)	
昭和58(1983)年4月1日		
昭和59(1984)年3月31日		
昭和59(1984)年4月11日		
昭和59(1984)年11月3日	内田俊一元学長、文化功労者顕彰(化学工学)	
昭和59(1984)年12月31日	母校創立百年を記念した「東京工業大学創立百年記念事業募金」を終了した。 ・応募額 14億1,357万8,377円 法人 10億4,836万5,000円(317社) 個人 3億6,521万3,377円(6,561名)	
昭和60(1985)年5月26日	・創立記念日に百年史の発行を完了した。(総費用4,112万円) ・国際交流基金をスタートさせた(4億3,200万円を基金に移管し同年度は2,333万7,350円支出した)。 ・百年記念館を母校正門内右側の風洞跡に建設することを決定した。	
昭和60(1985)年10月		
昭和61(1986)年4月1日		
昭和61(1986)年5月11日		②7中山 一郎 (昭和5・窯業)
昭和61(1986)年11月20日	関東・関西周辺地区合同支部長会(計10支部)開催、昭和61年3月開催の支部長会に先立って議論を尽くすため、地区支部長会の開催が提案され、試みに関東・関西2地区において地区支部長会を開催した。	
昭和61(1986)年11月15日	蔵前神社内の「蔵前学園の跡」記念碑の改修工事が竣工(工事費368万円)。	
昭和62(1987)年3月8日	関西地区5支部合同シンポジウムを開催。関西地区5支部(大阪、兵庫、京滋、和歌山、岡山)の若い卒業年度の会員を中心とした(参加者192名)。	



大岡山キャンパス(昭和60年8月5日)



長津田キャンパス(昭和60年8月5日)



全日本軽量級選手権で優勝した端艇部(決勝レースでの力漕・昭和60年6月23日)

■東京工業大学の歩み

文教施設「総合研究センター」を設置。

工業材料研究所附属水熱合成材料実験施設を廃止。

工業材料研究所附属新素材セラミックス実験施設を設置。

■学長

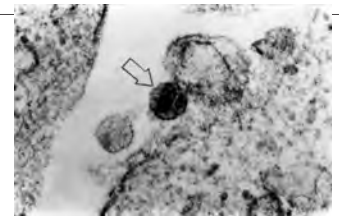
田中 郁三



田中郁三 学長

■科学分野の動き/社会の動き

エイズウイルス発見(フランス)



エイズウイルス(☞印)

- ・理学部附属天然物化学研究施設を廃止。
- ・理学部に生命理学科、工学部に生物工学科を設置。

スペースシャトル「チャレンジャー号」爆発事故



発射直後に爆発したチャレンジャー号

1987 → 1989

●昭和62年

●平成元年



百年記念館(資料館)の竣工式(昭和62年)



百年記念館の全景。手前は大学正門



百年記念館のフェライト記念会議室

年月日	蔵前工業会の歩み	理事長
昭和62(1987)年11月3日	東京工業大学創立百年記念事業の「百年記念館(資料館)」が竣工、開館した。 ・延床面積2,682.02㎡(4階建)	
昭和63(1988)年3月31日	「東京工業大学創立百年記念事業資金募金会」を解散した。 (1) 応募額 14億1,348万3,877円 (2) 記念事業状況 ・百年史 4,112万円 ・国際交流基金 4億3,195万5,000円 ・百年記念館(資料館) 9億7,374万9,056円	
昭和63(1988)年4月1日		
昭和63(1988)年4月8日		
昭和63(1988)年5月25日		㊟山崎 貞一 (昭和10・電気化学)
昭和63(1988)年9月~12月	「第1回蔵前スクール」を開催(回数10回、参加者107名)。昭和30年以降の若い年代の会員を対象として、会員の生涯教育と交流を目的に、本部と東京支部の共催で開催した。同企画は蔵前スクール企画委員会(委員長末松安晴学長)があたり、以後継続開催を計画した。	
昭和63(1988)年12月8日	土光敏夫相談役・元理事長(大正9・機械)の追悼会を母校百年記念館において開催した(参加者300名)。	
平成元(1989)年4月	学生会員制度において、母校の協力により勧誘方法を変更した結果、入会者増となった(入会者数1196名、前年388名)。	
平成元(1989)年5月29日		
平成元(1989)年10月		

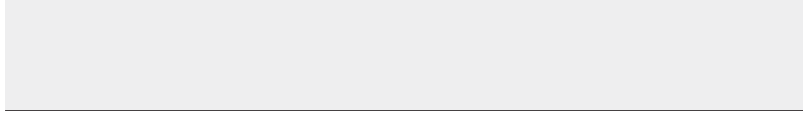


土光敏夫相談役・元理事長

- ・明治29(1896)年 岡山県北長瀬生
 - ・大正9(1920)年 東京高等工業学校機械科卒、(株)東京石川島造船所入社
 - ・昭和25(1950)年 石川島重工業(株)取締役社長
 - ・昭和40(1965)年 東京芝浦電気(株)(現・東芝)取締役社長
 - ・昭和49(1974)年 (社)経済団体連合会会長
 - ・昭和56(1981)年 臨時行政調査会(第二臨調)会長
 - ・昭和58(1983)年 臨時行政改革推進審議会(行革審)会長
- 土光敏夫氏の生涯は、日々新たな精進の積み重ねであった。晩

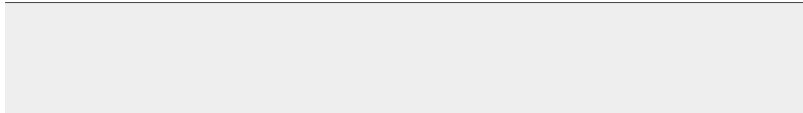
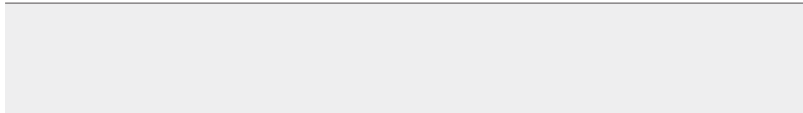
年に及び、国の行政改革を担うや、日本の将来を思う強い決意をもって全力を尽くした。本人は次のように述べている。
 「この辺で、将来の日本の建設に向けて根本的な基礎を固める時期である。高度成長期のように花見酒に酔っていたのではしょうがない。政府も高度成長時代の肥大化を続けていってよいわけがない。それには、行政改革を、肥大化した政府を健全な姿に是正して行くという面ばかりでとらえるのではなく、将来の日本はどうあるべきか、そういう将来を築くには、国民は何をなすべきか、という点から考えて行く必要がある」。
 本会でも東工大百周年記念事業推進等、会の運営に尽力した。

■東京工業大学の歩み



理学部に生体機構学科、工学部に生体分子工学科を設置。

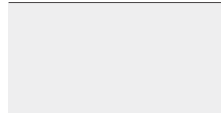
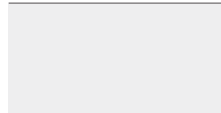
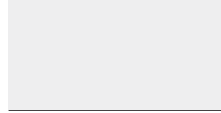
- ・留学生教育センターおよび草津白根火山観測所を設置。
- ・工業材料研究所附属新素材セラミックス実験施設を廃止し、同附属セラミックス研究センターを設置。



遺伝子実験施設を設置。



■学長



末松安晴 学長



末松 安晴

■科学分野の動き／社会の動き



青函トンネル開通



吉岡海底駅を通過する一番列車「海峡1号」

本四連絡橋の児島一坂出ルート開通



児島一坂出ルートの櫃石島橋(香川県)

冷戦の終結、ベルリンの壁崩壊



1990 → 1992

●平成2年

●平成4年



生命理工学部棟(長津田キャンパス)



生命理工学部の創設記念式典であいさつする末松学長



旧蔵前工業会館

■年月日	■蔵前工業会の歩み	■理事長
平成2(1990)年5月9日	<p>(株)蔵前工業会館が「土地信託契約」により新会館建物の建替え建設を行なう場合、同社へ貸付の本会所有の土地(現在地)の貸借権を、同社が上記信託契約の対象として組み入れることを評議員会で承認した。</p> <p>・(株)蔵前工業会館へ貸付けている土地面積は441.22㎡。</p>	
平成2(1990)年5月25日	上記議案を通常総会で承認した。	
平成2(1990)年6月19日		
平成3(1991)年3月	<p>会員名簿・会員管理のコンピューター導入について昭和61年夏より会員名簿コンピューター化企画委員会を設け、計画、検討作業を進めていたが、会員名簿は3月末発行を完了、会員・会費管理業務も8月末に移行を完了した。</p>	
平成3(1991)年4月1日		
平成3(1991)年4月12日		
平成3(1991)年4月30日	<p>新蔵前工業会館建設のため、同会館用地の賃貸借契約の更新契約を住友信託銀行(土地信託契約受託者)と締結した。</p>	
平成3(1991)年6月25日	蔵前工業会館の「お別れパーティー」を開催した(参加者170名)。	
平成3(1991)年7月1日	<p>新蔵前工業会館建設のため、旧館の取壊し開始。 建設期間：平成3年7月1日～平成5年12月末(予定)</p>	
平成3(1991)年11月5日	新会館建設の地鎮祭を挙行了した。	
平成3(1991)年11月7日	<p>土光敏夫氏の顕彰碑が岡山市天神町に完成し、除幕式が挙行された。山崎貞一蔵前工業会理事長、末松安晴東工大学長らが参列。</p>	
平成4(1992)年4月1日		



蔵前工業会館でのお別れパーティ



「土光敏夫先生記念苑」(岡山市)



記念苑にある土光敏夫氏の顕彰碑
(日本芸術院会員 淀井敏夫氏制作)

■東京工業大学の歩み

■学長

■科学分野の動き／社会の動き

生命理工学部を設置。理学部の生命理学科、生体機構学科ならびに工学部の生物工学科、生体分子工学科を振替。

平成不況始まる(バブルの崩壊)

大学院総合理工学研究科生命科学専攻を知能科学専攻と改称。

極低温システム研究センターを設置。
極低温エネルギー実験センターは廃止(平成2年3月31日付)。

地球環境サミットの円卓会議(ブラジル・リオデジャネイロ)



地球環境サミット開始

大学院生命理工学研究科を設置。バイオサイエンスおよびバイオテクノロジーの2専攻を設置。

1992 → 1993

●平成4年

●平成5年



富山県で開催した第1回「蔵前科学技術セミナー」



『Tokyo Tech Now』の創刊号

■『Tokyo Tech Now』の発刊の経緯

大学の自己点検、自己評価は、大学の設立の目的と使命が、日常の運営の面で達成されているかどうかを点検し、問題を克服することにある。

平成3年の大学設置基準の改正による大綱化は、各大学が独自の教育、研究理念に基づいて教育・研究を行うことができる自由を得たが、一方自らの行動について自己点検、自己評価、自主管理をしなければならなくなった。

表題の『Tokyo Tech Now 東京工業大学1993』は、当時の本学の自己点検、自己評価の白書の前段階としての報告書であり、中村哲朗教授を委員長とする「東京工業大学教育研究等総合検討委員会」での総合的な自己点検の一環として、木村孟教授を主査とする小委員会がまとめたものである。

■年月日	■蔵前工業会の歩み	■理事長
平成4(1992)年4月10日		
平成4(1992)年5月25日		⑳大和田 国男 (昭和18・機械)
平成5(1993)年3月23日	第1回「蔵前科学技術セミナー」を本部、富山県支部との共催で開催した。公益法人としての事業実施に関し通商産業省の指導と、理事長の支部事業活性化方針に基づき、広く一般を対象とした。 ・テーマ「激動する国際化社会における技術戦略—技術の基盤づくり—」	
平成5(1993)年4月1日		
平成5(1993)年7月		
平成5(1993)年10月		
平成5(1993)年11月1日	「新蔵前工業会館竣工記念募金」の実施。この事業は、「旧会館建設時の先輩方の熱意と貢献に想いを致し感謝と敬意を表すると共に現会員が後輩会員のため何らかの形で新会館の足跡を残すべきである」との趣旨により、新会館7階1フロアを借室して、会員のための記念集会室として利用に供する。募金目標額2億円	
平成5(1993)年12月28日	新蔵前工業会館が竣工した。 ・新会館の概要 敷地面積 441.22㎡ 建 物 地下2階 地上10階 延床面積 4,587.59㎡ 総事業費 67億6,257万5,000円 返済期間 30年	



新蔵前工業会館の全景(平成5年)



会館の入口



会館の会員談話室前室(10階)

■東京工業大学の歩み

- ・炭素循環素材研究センターを設置。
- ・理学部に地球・惑星科学科を設置。

■学長

■科学分野の動き／社会の動き

- ・文教施設総合研究センターを廃止し、文教施設研究開発センターを設置。
- ・工学部の機械工学科、生産機械工学科、機械物理工学科、制御工学科及び経営工学科を改組し、機械科学科、機械知能システム学科、機械宇宙学科、制御システム工学科及び経営システム工学科を設置。
- ・大学院総合理工学研究科に環境物理工学専攻を設置。

『Tokyo Tech Now—東京工業大学 1993』発刊(大学の自己点検、自己評価の白書で現状を詳細にまとめたもの)。

木村 孟



木村孟 学長

1994 → 1996

●平成6年

●平成8年



新蔵前工業会館の会員談話室(10階)



会館の竣工式(平成6年)



会館のオープニングパーティでの鏡開き

年月日	蔵前工業会の歩み	理事長
平成6(1994)年1月17日	「新蔵前工業会館」の竣工を祝してオープニングパーティーを開催した。出席者268名。	
平成6(1994)年4月1日		
平成6(1994)年4月15日	タイ国バンコクに於いて「バンコク支部設立準備会」が開催された。末松安晴学長が出席された。	
平成6(1994)年5月25日		③横山 亮次 (昭和19・応用化学)
平成6(1994)年6月24日		
平成6(1994)年10月15日	中華人民共和国北京市において、「北京支部設立大会」を開催する。横山亮次理事長、竹中良雄事務局長が出席した。	
平成7(1995)年4月1日		
平成7(1995)年8月		
平成7(1995)年8月21日	阪神大震災被災会員への義援金募金を行い、本部および各支部より兵庫県支部、大阪支部へ届けた。 総額317万7,926円 (個人159万8,500円、各支部・グループ157万9,426円)	
平成7(1995)年10月31日	「新蔵前工業会館竣工記念募金」は、目標額を越え終了した。応募額2億907万7,974円	
平成8(1996)年	会誌を「B5版・64頁」年8回の発行に改めた。	



バンコク(タイ)支部の懇親会にて



北京(中国)支部設立大会にて



大学院情報処理工学研究科の創設式典(平成10年)

■東京工業大学の歩み

大学院情報処理工学研究科を設置し、数理・計算科学、計算工学、および情報環境学の3専攻を設置。

- ・留学生教育センターを廃止し、留学生センターを設置。
- ・量子効果エレクトロニクス研究センターおよび生物実験センターを設置。
- ・精密工学研究所 本学初の外部評価を実施。

- ・大学院総合理工学研究科の社会開発工学およびエネルギー科学専攻を廃止し、人間環境システムおよび創造エネルギー専攻を設置。
- ・工学部化学工学科、機械科学科、電子物理工学科および土木工学科を改組し、化学工学科、機械科学科、電子物理工学科、土木工学科および開発システム工学科を設置。

スーパーコンピュータ プログラミングコンテスト(Super Con.)を開始。

■学長

■科学分野の動き/社会の動き

阪神大震災で倒壊した阪神高速道路



阪神大震災
マイクロソフト WINDOWS95発表
IT革命の開始



WINDOWS 95日本語版の発売で混雑する店内(東京・秋葉原)

ポケモン誕生

1996 → 1997

●平成8年

●平成9年



スーパーコンピュータ プログラミングコンテスト(第10回)



第2回韓国嶺南支部總會(平成10年3月6日)



大岡山駅の地下化改築工事(下図は断面図)

年月日	蔵前工業会の歩み	理事長
平成8(1996)年4月1日		
平成8(1996)年5月	島岡達三氏、重要無形文化財保持者(人間国宝)の認定。(民芸陶器(縄文象嵌))	
平成8(1996)年5月11日		
平成8(1996)年6月30日	「株蔵前工業会館特別寄付」を終了した。同窓会館として工業会の活動の場である蔵前工業会館の経営改善のため、会員を対象として平成6年11月より募金活動を行なったが、目標額を達成して終了した。 ・寄付金額 2億4,902万1,000円	
平成9(1997)年4月～	「国際交流委員会」を設置した。東京工業大学の国際的学術・教育活動を活性化することを目的として本委員会を設立し「国際交流助成制度」が充足した。	
平成9(1997)年4月1日		
平成9(1997)年6月15日	台湾支部設立総会開催。横山亮次理事長、須田稔埼玉支部長他5名が出席。	
平成9(1997)年6月27日	韓国嶺南支部(釜山を中心とする地区)設立総会を開催。	
平成9(1997)年10月		
平成9(1997)年11月3日	向山光昭名誉教授、文化勲章受章(有機化学)	



島岡達三氏

- ・大正8(1919)年生 東京都出身
- ・昭和16(1941)年 東京工業大学窯業学科卒業
- ・陶芸家、人間国宝(民芸陶器・縄文象嵌)

当初、濱田庄司氏に師事し、一緒に古代土器、縄文の技法を研究していた。その後、組紐の転がし方によってできる様々な縄文に、その窪みに白土を象嵌することで、新しい文様が生まれる縄文象嵌の技法をあみ出した。また、李朝陶器の三島象嵌にも深い影響を受けた。従って、島岡氏の縄

文象嵌は益子の土と釉薬を使う益子陶芸を基礎として、日本古代の縄文土器、江戸組紐、さらに李朝三島手で形成されている。島岡氏は、地釉、流文、塩釉などの陶技を駆使した独自性のある作品を発表し、'90年代以降、これら技法を互いに重ねて用いる、技術的には複合的、効果としては色彩と釉調の変化が強められ、創造の領域に達した。また、陶芸における指導は国内外に及び、その活動は高く評価されている。

地釉縄文象嵌壺(昭和30年)(日本民藝館所蔵)



■東京工業大学の歩み

- ・大学院社会理工学研究科を設置し、人間行動システム、価値システム、経営工学及び社会工学の4専攻を設置。
- ・大学院総合理工学研究科の知能科学およびシステム科学専攻を廃止し、知能システム科学専攻を設置。
- ・理学部地球・惑星科学科を地球惑星科学科に改称。
- ・大学院理工学研究科に地球惑星科学専攻を設置。

■学長

■科学分野の動き／社会の動き

- ・外国語研究教育センターを設置。
- ・工業材料研究科を改組し、応用セラミックス研究所を附置。
- ・工業材料研究所附属セラミックス研究センターを改組して応用セラミック研究所附属構造デザイン研究センターを設置。
- ・『Tokyo Tech Now 1995』発刊。
第2回 自己点検、外部評価実施。

- ・アイノープ総合センターを設置。
- ・大学院総合理工学研究科の電子化学および材料科学専攻を改組し、物質電子化学、材料物理学および物質科学創造専攻を設置。

内藤喜之 学長



内藤 喜之

東海再処理工場の火災爆発
クローン羊の実験成功(イギリス)



クローン羊「ドリー」

1998 → 1999

●平成10年

●平成11年



向山光昭名誉教授

- ・昭和2(1927)年生 長野県出身
- ・昭和23(1948)年 東京工業大学化学課程卒業
- ・東京大学名誉教授、東京工業大学名誉教授

尿素、ウレタンの熱解離反応の機構に関する研究において、ニトロアルカンからアルキルニトリルオキシドの生成という新反応を見出した。続いてリン酸化反応・開環重合反応など独創的な反応を次々と開発した。さらに「酸化一還元縮合」の名で呼ばれる全く新しい形式の縮合反応、そしてアルドール反応など一連の有用な合成反応を開発した。このように立体選択的合成を中心とする独自の研究領域を、有機合成化学の分野に開拓した。



長津田キャンパス「すずかけ門」の除幕(平成10年3月2日)

■年月日	■蔵前工業会の歩み	■理事長
平成10(1998)年4月1日		
平成10(1998)年4月9日		
平成10(1998)年5月25日		③千野 孝 (昭和24・電気)
平成11(1999)年2月26日	経済不況長期化に伴い、会館並びに関連する工業会について徹底した経営改善策を検討するため「経営委員会」を設置した。 ・委員長 盛田正明常務理事(昭和26・電化)	
平成11(1999)年4月1日		
平成11(1999)年5月	宗宮重行名誉教授(無機材料化学)および上代淑人博士(生化学・分子生物学)が学士院賞受賞。	



「すずかけ門」完成時のテープカット



「すずかけ門」の設置前



フロンティア創造共同センター

■東京工業大学の歩み

- ・大学院理工学研究科の数学、物理学、化学、応用物理学、地球惑星科学、金属工学(一部)、有機材料工学(一部)、無機材料工学(一部)、化学工学(一部)および高分子工学専攻(一部)を改組し、数学、基礎物理学、物性物理学、化学、地球惑星科学および物質科学専攻を設置。
- ・大学院総合理工学研究科の化学環境工学および環境物理学専攻を改組し、化学環境学および環境理工学創造専攻を設置。
- ・理学部数学科、物理学科、化学科、応用物理学科、情報科学科および地球惑星科学科を改組し、数学科、物理学科、化学科、情報科学科および地球惑星科学科を設置。

研究・情報交流センターを廃止し、フロンティア創造共同研究センターを設置。

■学長

■科学分野の動き/社会の動き

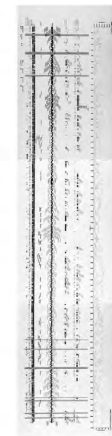
長野オリンピック



長野オリンピックの開会式

東海村の核燃料工場で国内初の臨界事故
ヒトの22番染色体の遺伝子暗号配列の解読(日本・米国・英国)

- ・理財工学研究センター設置。
- ・大学院理工学研究科金属工学、有機材料工学、無機材料工学、化学工学および高分子工学専攻を改組し、材料工学、有機・高分子物質、応用化学および化学工学専攻を設置。
- ・大学院生命理工学研究科のバイオサイエンス(一部)およびバイオテクノロジー専攻(一部)を改組し、分子生命科学、生命情報および生体分子機能工学専攻を設置。
- ・大学院総合理工学研究科の物理情報工学および電子システム専攻を改組し、物理情報システム創造および電子機能システム専攻設置。
- ・生命理工学部生命理学科、生体機能工学科、生物工学科および生体分子工学科を改組し、生命科学および生命工学科を設置。



ヒト22番染色体の解読結果の概略図

1999 → 2001

●平成11年

●平成13年

■大学院重点化の完了

大学院の研究科は、①学部を基礎としているもの②学部を基礎としているが大学院に教育研究拠点としての役割を持たせ、独立部局として位置付けられたもの③学部を基礎としないもの(独立研究科)に分けられる。本学は平成10年度から大学院の重点化を進め、平成12年度に完了した。

- ・重点化された組織 理工学研究科(理学部、工学部)、
生命理工学研究科(生命理工学部)
- ・独立研究科 総合理工学研究科、情報理工学研究科、
社会理工学研究科

本学は大学院を中心とした「研究大学」、「理工系総合大学」として、新たな歩みを始めた。



火山流体研究センター

■四大学連合憲章

(前略)四大学連合は、連合を構成する各大学が、それぞれ独立を保ちつつ、研究教育の内容に応じて連携を図ることで、これまでの高等教育で達成できなかった新しい人材の育成と、学際領域、複合領域の研究教育の更なる推進を図ることを目的とする。

各大学が相互に連携を図るにあたっては、(中略)①教育体制を確立 ②国際的な研究水準の維持・達成 ③海外大学との連携による教育研究の発展・向上を目標として、学生、教官及び研究者の交流を図り、各大学の研究教育の水準を一層向上させるよう努力するものとする。

■年月日

■蔵前工業会の歩み

■理事長

平成11(1999)年9月16日

(株)蔵前工業会館が平成12年1月31日に実施する増資に対して土地(底地権)を現物出資することを評議員会、総会(臨時)で決める。
新株発行価格総額は現物出資対象の土地底地権の鑑定価格とした。
・鑑定価格額6億4,000万円(441.22㎡)

平成12(2000)年2月17日

会友制度を創設。本制度は、長年役員として貢献された方の識見、経験を蔵前工業会の発展、事業推進のために活かすことを目的とする。選出基準は、役員として通算8年以上在任後、退任した方で理事会の承認を受けた会員。

平成12(2000)年4月1日

平成12(2000)年10月26日

英国支部が発足した。在外邦人会員による海外支部設置を認める内規制定による。

平成12(2000)年11月3日

白川英樹博士(昭和36・化工)、文化勲章受章(高分子化学)

平成12(2000)年12月10日

白川英樹博士、ノーベル化学賞受賞

平成12(2000)年12月21日

白川英樹博士のノーベル化学賞受賞祝賀会を大学と共催で開催した。
・出席者466名(工業会250名、大学216名)

平成13(2001)年3月15日



白川英樹博士

- ・昭和11(1936)年生 東京都出身
- ・昭和41(1966)年 東京工業大学大学院理工学研究科化学工学専攻博士課程修了

・筑波大学名誉教授
ノーベル化学賞を受賞したのは「導電性ポリマーの発見と開発」であった。昭和42年、濃厚なZeigler-Natta触媒を用いてフィルム状のポリアセチレンができることを発見、さらに構造解析の研究を重ねて発表した。この製法は「Shirakawa Method」として広く世界に知られたが、まだ電気伝導度が低かった。昭和47年一緒に受賞したA. J. Heeger教授、

A. G. MacDiarmid教授との共同研究により、フィルムにハロゲンをドーピングすると電気伝導度が12桁上昇することを発見した。この成果は、有機高分子物質が金属に匹敵する高い導電性を発現するという、高分子化学と物理学の新しい境界領域を切り開き、その後の導電性ポリマーの発展と応用につながった。

「ノーベル賞」の賞状



■東京工業大学の歩み

■学長

■科学分野の動き／社会の動き

ヒトゲノム読み取り完了

- ・草津白根火山観測所を廃止し、火山流体研究センターを設置。
- ・精密工学研究所に附属マイクロシステムシステム研究センターを設置。
- ・副学長制度(教育担当、研究担当の2副学長)の導入。
- ・『Tokyo Tech Now 1999』発刊
第3回自己点検、外部評価実施。
- ・大学院理工学研究科機械工学、生産機械工学、機械物理工学、制御工学、電気・電子工学、電子物理工学、土木工学および建築学専攻を改組し、機械物理工学、機械制御システム、機械宇宙システム、電気電子工学、電子物理工学、集積システム、土木工学および建築学専攻を設置。
- ・大学院生命理工学研究科バイオサイエンスおよびバイオテクノロジー専攻を改組し、生体システムおよび生物プロセス専攻を設置。
以上で、進めてきた大学院の重点化を完了。
- ・工学部電気・電子工学科、電子物理工学科および情報工学科を改組し、電気電子工学および情報工学科を設置。

四大学(東京医科歯科大学、東京外国語大学、一橋大学、東京工業大学) 連合憲章締結。

2001 → 2002

●平成13年

●平成14年



創立120周年記念式典、内藤学長による式辞（平成13年）



記念式典での校歌斉唱



「マイスター」鳥人間コンテストで優勝（琵琶湖・平成13年）

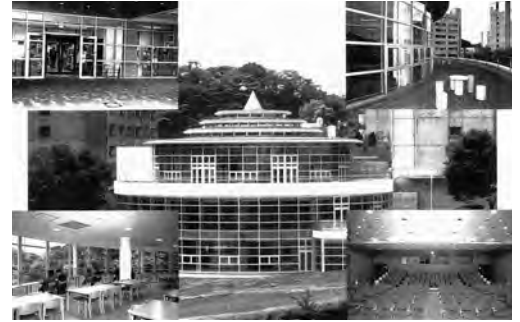
■年月日	■蔵前工業会の歩み	■理事長
平成13(2001)年4月1日		
平成13(2001)年5月25日	東京工業大学創立120周年記念式典、祝賀会が開催され、千野孝理事長が出席。	
平成13(2001)年10月		
平成13(2001)年11月4日	中国上海市に上海支部が設立された。設立総会に入江俊昭常務理事・国際交流委員長、石井昭三事務局長等6名が出席。	
平成13(2001)年12月1日		
平成13(2001)年11月5日		
平成14(2002)年2月1日		
平成14(2002)年4月1日		
平成14(2002)年5月23日		③古川 昌彦 (昭和28・応用化学)
平成14(2002)年6月	蔵前ネット委員会で準備が進められてきた「蔵前ネットサービス」がスタートした。	
平成14(2002)年9月17日	東工大の「イノベーション研究推進体」発足記念講演会・交流会が開催され、本会は後援するとともに、古川昌彦理事長、石井昭三事務局長が出席した。	
平成14(2002)年10月1日		



イノベーション研究推進体の記念講演会



すずかけ台大学会館の竣工式典（平成14年9月20日）



すずかけ台大学会館の施設（組写真）

■東京工業大学の歩み

- ・総合情報処理センターおよび理工学国際交流センターを廃止し、学術国際情報センターを設置。
- ・極低温システム研究センターを廃止し、極低温物性研究センターを設置。
- ・創立120周年記念式典を開催。
- ・長津田キャンパスを「すずかけ台キャンパス」と改称。
- ・附属図書館長津田分館をすずかけ台分館と改称。

「研究戦略室」を設置。

総合分析支援センターを設置。

インキュベーションセンターを設置。

- ・炭素循環素材研究センターを廃止し、炭素循環エネルギー研究センターを設置。
- ・「評価室」および「国際室」を設置。

国際的産学官研究拠点の形成基盤となる革新的特定分野を立ち上げ戦略的な展開を推進するため「イノベーション研究推進体」を設置した。

「イノベーション研究推進体」発足記念講演会、交流会を開催。

「総合安全管理センター」および「広報・社会連携センター」を設置。

■学長

相澤 益男



相澤益男 学長

■科学分野の動き／社会の動き

世界多発テロ、ニューヨーク世界貿易センタービル崩壊



炎上する世界貿易センタービル

インド西部地震
エルサルバドル地震

2002 → 2003

●平成14年

●平成15年



初の海外拠点、バンコク(タイ) オフィス開所式(平成14年)



「東工大発ベンチャー」の称号授賞式(平成15年)



すずかけ台キャンパス全景(平成15年)

■年月日	■歳前工業会の歩み	■理事長
平成14(2002)年10月17日		
平成14(2002)年11月30日	卒業20周年全学科同期会を開催し、本会は初めて開催支援を行なった。これにより、名簿の充実、同期会ネットワークの活性化による効果を狙った。	
平成15(2003)年1月9日		
平成15(2003)年3月		
平成15(2003)年3月27日	<p>(株)歳前工業会館の株主総会(臨時)で会館(土地・建物)の売却が承認された。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(株)歳前工業会館の土地信託受益権譲渡(土地・建物売却) (1) 時期 <ul style="list-style-type: none"> 契約日 平成15年3月31日 決済日 平成15年5月30日(引渡し) (2) 補償金 <ul style="list-style-type: none"> 3億9,000万円以上(会館のすべての債務を相殺後) 	
平成15(2003)年3月31日	<p>所管官庁である経済産業省大学連携推進課の定時監査で下記の指導を受けた。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 公益法人法の抜本改革が出る前に内部で基本的な議論を積み重ねて基本方針(同窓会色をなくし、社団法人格を維持するのか、同窓会としての活動を継続するために中間法人格等を取得する道を選択するのか)を固めて欲しい。 (2) 本部と支部の会計を連結した適正な会計処理をして欲しい等。 	
平成15(2003)年4月1日		
平成15(2003)年4月17日	(株)歳前工業会館が会館(土地・建物)を売却することが評議員会(臨時)で承認された。その後5月23日会員総会で承認された。	
平成15(2003)年5月15日		



田園都市線、すずかけ台駅



すずかけ台門(入口)



すずかけ台キャンパスの案内板

■東京工業大学の歩み

タイ王国に海外オフィス(TOKYO TECH OFFICE (THAILAND))開設。

本学の研究成果または人的資源等を活用して起業されたベンチャー企業に「東工大発ベンチャー」の称号を付与した(企業16社)。

『Tokyo Tech Now 2002』発刊。(国立大学法人化へ向けて—自己点検・自己評価・外部評価)。

- ・大学院総合理工学研究科精密機械システム専攻をメカノマイクロ工学専攻と改称。
- ・文教施設研究開発センターを廃止し、教育環境創造研究センターを設置。
- ・遺伝子実験施設、生物実験センターおよびアイソトープ総合センターを廃止し、バイオ研究基盤支援総合センターを設置。

「教育推進室」を設置。

■学長

■科学分野の動き/社会の動き

イラク戦争開戦



米軍の攻撃で煙を上げる大統領宮殿
中国などSARS大流行
スペースシャトル「コロンビア」空中分解



空中分解する「コロンビア」
中国、有人宇宙船「海舟5号」の打ち上げに成功
アルジェリア地震
イラン地震

2003 → 2004

●平成15年

●平成16年



蔵前工業会新事務所（八重洲共同ビル・平成15年）



田町キャンパスイノベーションセンター（CIC）。7～9階が東工大スペース



蔵前工業会CIC談話室（CICの8階）



蔵前工業会ベンチャー相談室のCIC相談室開設

年月日	蔵前工業会の歩み	理事長
平成15(2003)年7月	蔵前工業会館の売却により、蔵前工業会の事務局を八重洲共同ビルに移転した。なお、(株)蔵前工業会館は平成15年12月に清算した。	
平成15(2003)年9月1日		
平成15(2003)年9月5日		
平成15(2003)年11月3日	末松安晴元学長、文化功労者顕彰(電子工学)	
平成16(2004)年2月24日		
平成16(2004)年4月1日		
平成16(2004)年5月17日	起業を考えている会員に技術的・経営的な支援を行なうため「蔵前ベンチャー相談室」(室長稲生武(昭和37・機械))が田町キャンパスイノベーションセンター内に開設され、相談業務を開始した。	
平成16(2004)年7月～	国立大学法人としてスタートした母校(特に学生)への支援強化策として「(財)東京工業大学後援会」の募金を促進すべく積極的な活動を開始した。平成16年7月から平成17年3月31日までに目標額2,000万円をほぼ達成した。	
平成16(2004)年9月～	「東工大・蔵前カード」(OB用、UFJカード)が発行された。会員の消息把握、管理業務合理化、会費納入促進、母校支援等のため。初年度加入約3,000名。	
平成16(2004)年10月7日	中国北京支部の創立10周年記念式典が催された。中里安克事務局長、柴生田清国際交流委員、宇高庶務委員他が出席した。	



百年記念館で開かれたベンチャー相談室の第1回懇親会(平成16年2月23日)

末松安晴元学長

- ・昭和7(1932)年 岐阜県出身
- ・昭和35(1960)年 東京工業大学大学院理工学研究科電気工学専攻博士課程修了
- ・東京工業大学名誉教授、元学長、元国立情報学研究所長

研究上の業績は、広帯域光ファイバー通信の研究をその萌芽期から指導的に育成するとともに、わが国のみならず世界中の学界及び産業界で活躍する多くの人材を育成し、光通信工学分野の学術的發展に顕著な貢献

をした。世界中の通信網に使われている大容量の光ファイバー通信は、通常の電波よりもはるかに周波数の高いレーザー光を用いることによって可能となった。中でも、従来の製造技術では困難と見られていても原理的に広帯域伝送特性に優れた単一モードファイバーを使用する高性能伝送システムを提唱し、一定の特性の動的単一モードレーザーを用いることによって解決することを提案し、世界で初めて実現させた。また、現在、Tbit/sを超える超広帯域波長多重光ファイバー通信の基礎となる研究にも多大な貢献をしている。

■東京工業大学の歩み

都市地震工学センターを設置。

「産学連携推進本部」を設置。

中国清華大学との大学院合同プログラム設立の協定締結。

- ・国立大学法人 東京工業大学設立。
- ・量子効果エレクトロニクス研究センターを廃止し、量子ナノエレクトロニクス研究センターを設置。
- ・「企画室」および「財務管理室」を設置。

中国清華大学に海外オフィス (TOKYO TECH OFFICE (BEIJING)) を開設。

■学長

相澤 益男

■科学分野の動き／社会の動き

NASA火星探査機が火星にかつて水があったことを確認



火星地表で活動する探査車「スピリット」のロボットアーム

スマトラ沖地震M9.3による最大10mの津波発生



津波が建物に襲撃(タイ・プーケット) 中越地震

2005 → 2006

●平成17年

●平成18年

田中郁三元学長

- ・大正15(1926)年生 東京都出身
- ・昭和22(1947)年 東京帝大理学部化学科卒業
- ・東京工業大学名誉教授、元学長、学位授与機構名誉教授

戦後の混乱期に先見性をもって、光化学分野の重要性に注目し、その発展の基礎を築いた。とくに、質量分析のイオン源に真空紫外部の光を用いる方法を世界で初めて考案し、光イオン化質量分析法を開発した業績は、独創性豊で国際的にも注目された。世界的にも早期に

化学の研究にレーザーを導入し、光と物質の相互作用を分子レベルで研究する分子光化学のパイオニアとなり、それは後の光化学研究に一つの道筋をつけるものとなった。

また、光化学協会を創設したほか、同協会初代会長、日本化学会会長などを務め、国際光化学会議の委員など、国内外の学術の振興に多大な貢献をした。



東工大フィリピンオフィスの開所式で挨拶する相澤学長(平成17年)

■年月日	■蔵前工業会の歩み	■理事長
平成17(2005)年4月1日		
平成17(2005)年5月26日	「情報システム委員会」(委員長稲生武(昭和37・機械))、「若手会員活性化委員会」(委員長、中塚久世(昭和49・情科))が発足した。IT時代に相応しい会員に対する質の高いサービスを提供できるシステムの構築と会員管理機能強化、それに若手会員増加を目指している。	
平成17(2005)年9月29日		
平成17(2005)年10月1日		
平成17(2005)年11月3日	田中郁三元学長、文化功労者顕彰(物理化学)	
平成18(2006)年1月1日		
平成18(2006)年2月4日	蔵前工業会創立百年記念式典を挙げる。 また、同記念事業としてノーベル賞受賞者による「特別シンポジウム」を開催した。 ・テーマ「21世紀の科学技術のフロントランナーとしてのあるべき姿」	



大岡山キャンパス(平成17年)



すずかけ台キャンパス(平成17年)



田町キャンパス(平成17年)

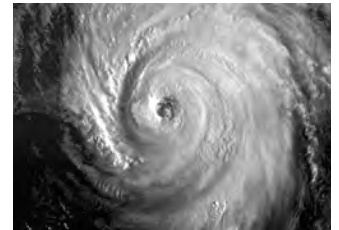
■東京工業大学の歩み

- ・大学院イノベーションマネジメント研究科を設置。技術経営専攻(専門職学位課程)及びイノベーション専攻(博士後期課程)を設置。
- ・工学部附属工業高等学校を改組し、附属科学技術高等学校を設置。
- ・理財工学部研究センターを廃止、設置。
- ・大規模知識資源センター、インスティテューショナル技術経営学研究センター、量子ナノ物理学研究センター、バイオフィロンティアセンター、エージェントベース社会システム科学研究センター、分子理工学センター、地球史研究センター、ものづくり教育研究支援センターを設置。
- ・大学院総合理工学研究科物理情報システム創造専攻および電子機能システム専攻を改組し、物理電子システム創造専攻および物理情報システム専攻を設置。

■学長

■科学分野の動き/社会の動き

パキスタン地震
ハリケーン「カトリーナ」発生



気象衛星「ノア」が撮影した「カトリーナ」

耐震設計偽装問題

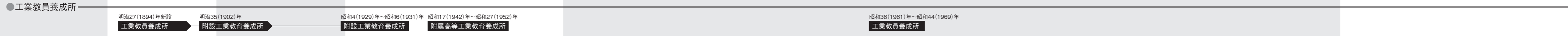
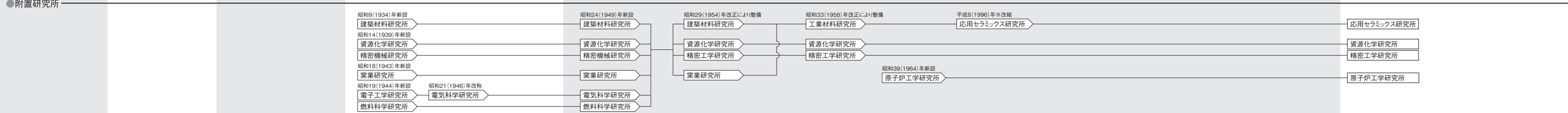
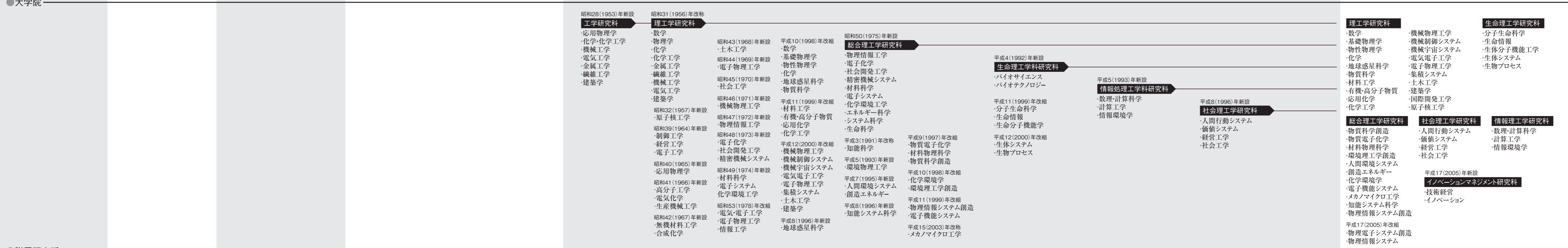
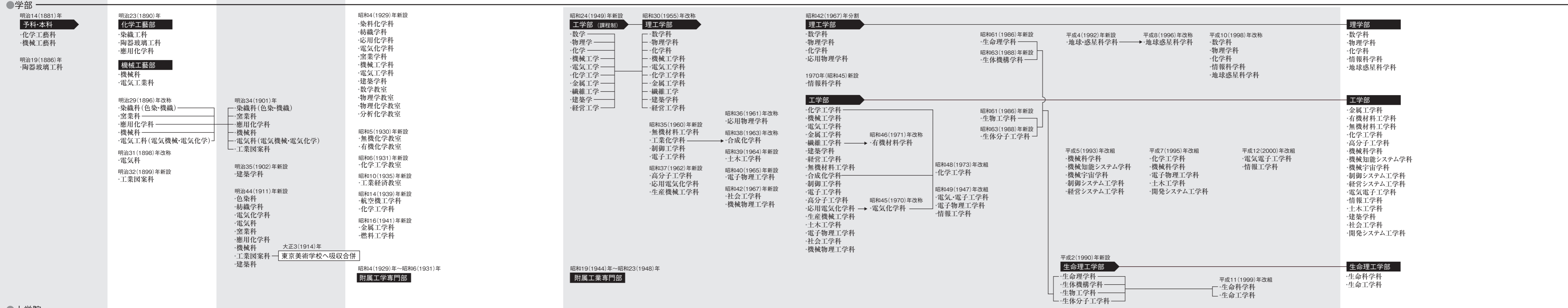
フィリピン共和国デラサール大学に海外オフィス(TOKYO TECH OFFICE (PHILIPPINES))を開設。

ソリューション研究および先進的研究の推進を目的に統合研究院を設置。

革新的原子力研究センターを設置。

東京工業大学 沿革

東京職工学校 明治14(1881)年創立 | 東京工業学校 明治23(1890)年改称 | 東京高等工業学校 明治34(1901)年改称 | 東京工業大学(旧制) 昭和4(1929)年昇格 | 東京工業大学(新制) 昭和24(1949)年新設 | 国立大学法人東京工業大学 平成16(2004)年移行



☐ 社団法人 藏前工業會